

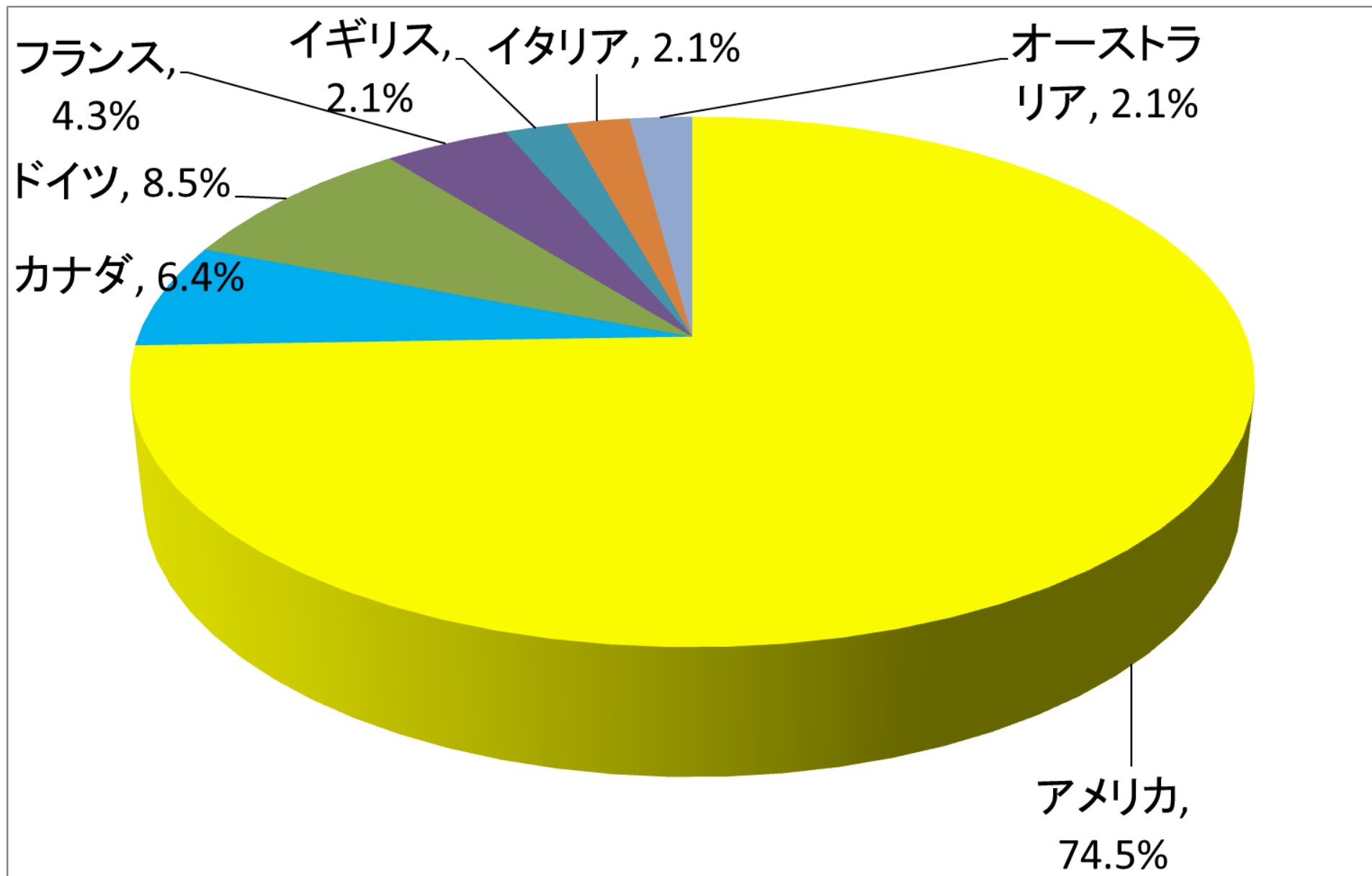
1. 留学先

質問(1)

留学先の大まかな地域分けについて該当する地域を1つ選んでください

- 1 アメリカ、カナダ
- 2 ヨーロッパ
- 3 オーストラリア
- 4 その他

1. 留学先



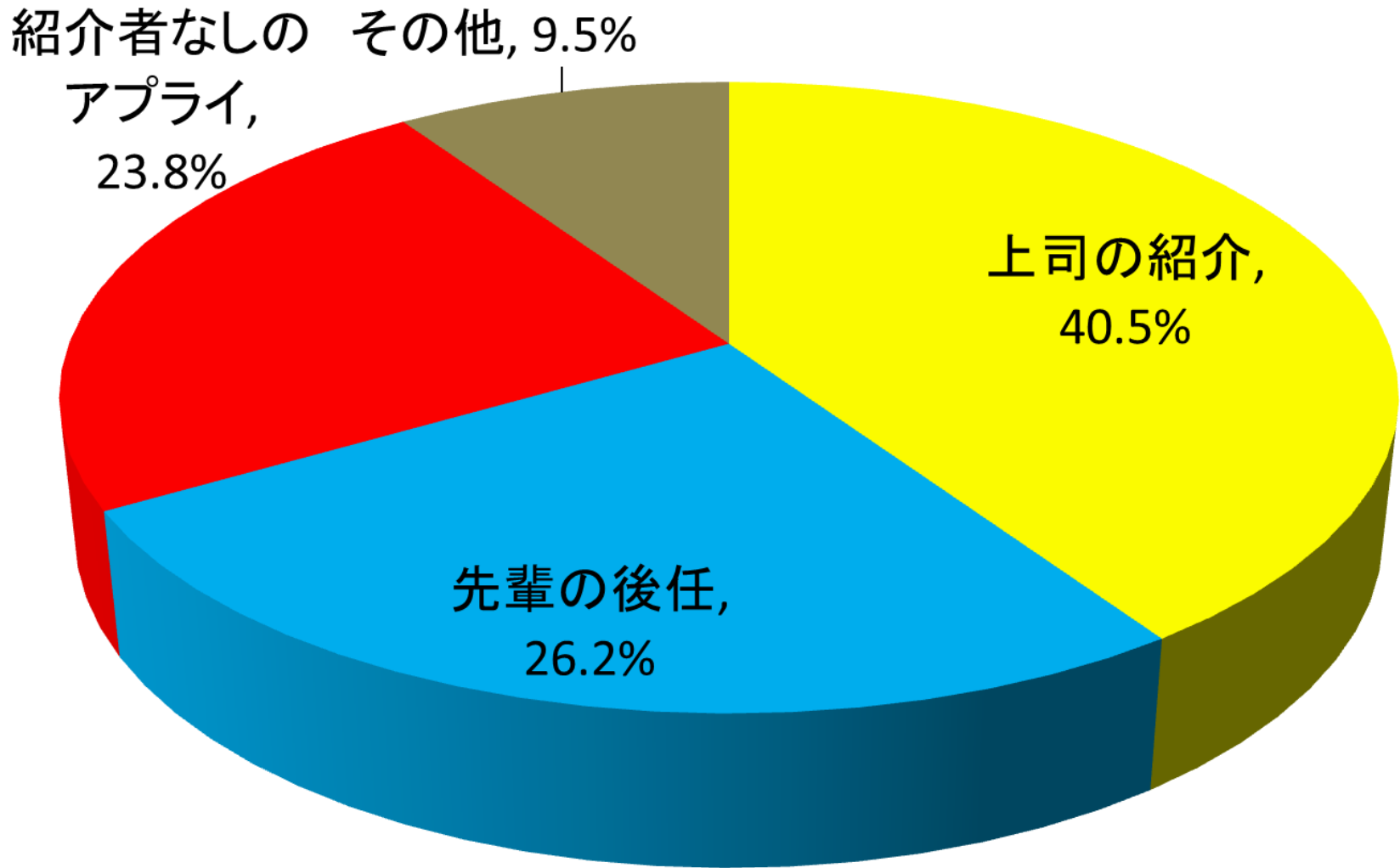
2. 留学先の見つけ方

質問(2)

留学先の見つけ方を1つ選んでください

- 1 上司の紹介
- 2 先輩の後任
- 3 紹介者なしのアプライ
- 4 その他

2. 留学先の見つけ方



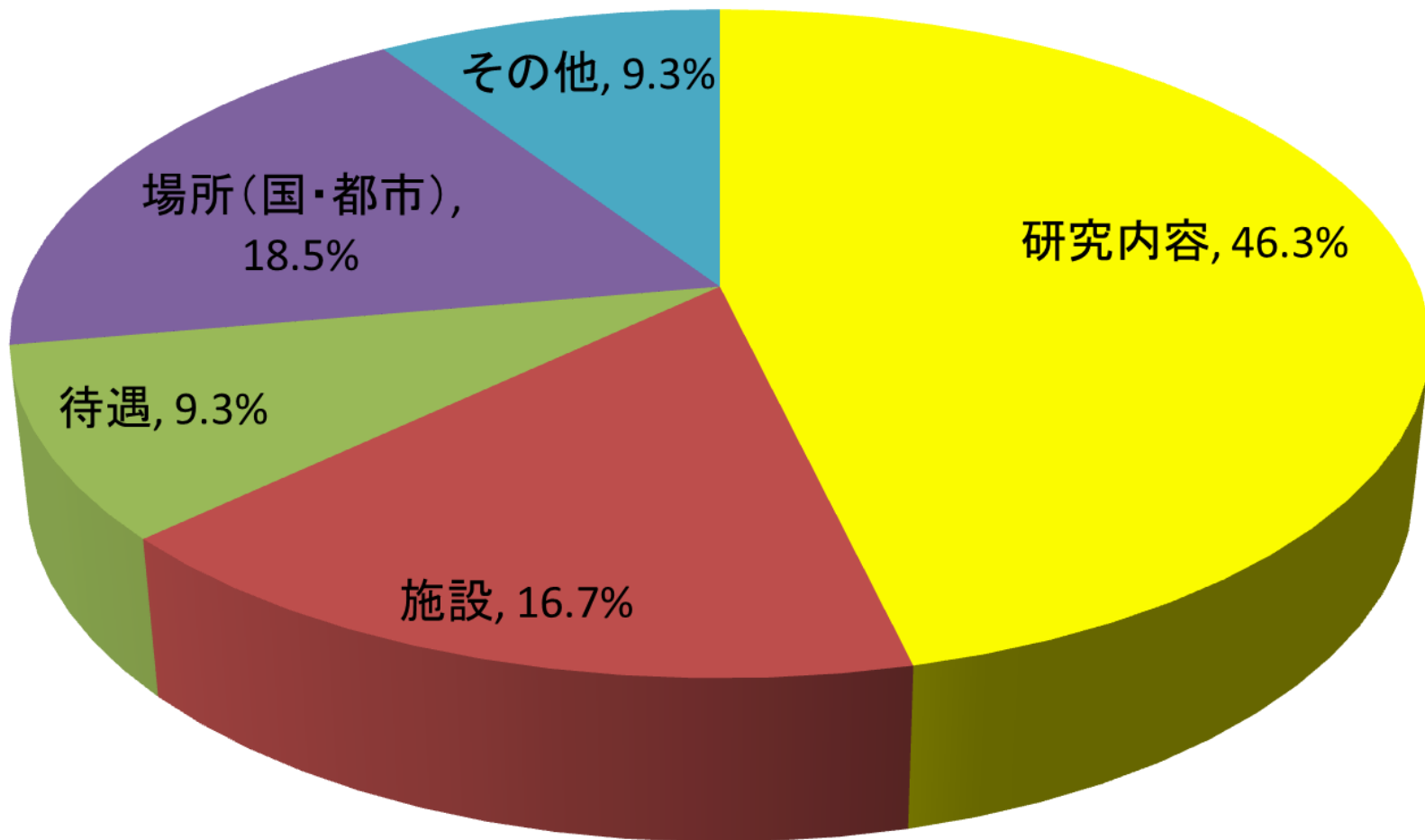
3. 留学先決定優先事項

質問(3)

留学先決定の優先事項を2つ選んでください

- 1 研究内容
- 2 施設
- 3 待遇
- 4 場所
- 5 その他

3. 留学先決定優先事項



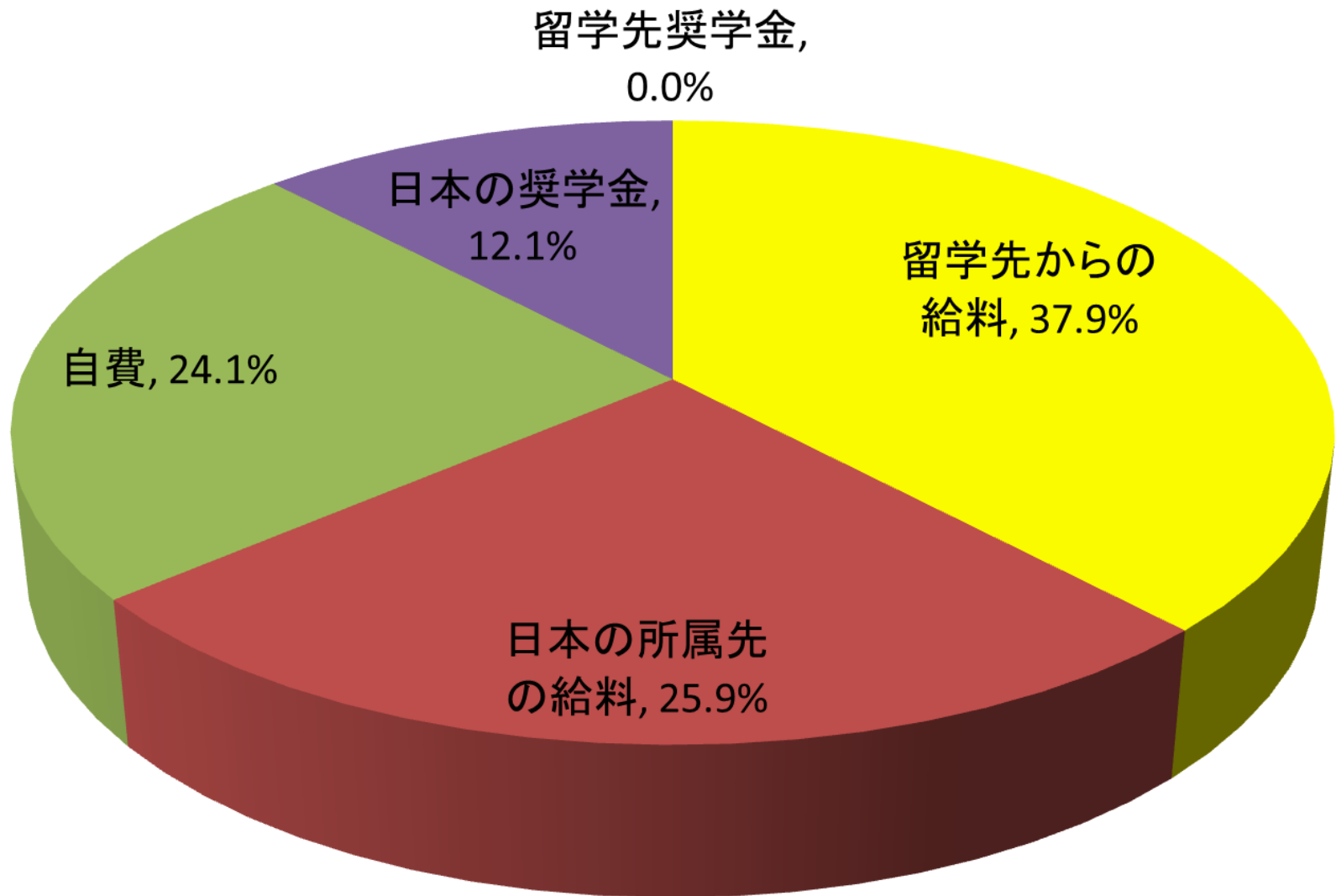
4. 留学の資金源

質問(4)

留学に要した資金源についてあてはまるものすべてを選んでください

- 1 留学先からの給料
- 2 留学先奨学金
- 3 日本の奨学金
- 4 日本の所属先の給料
- 5 自費
- 6 その他

4. 留学の資金源

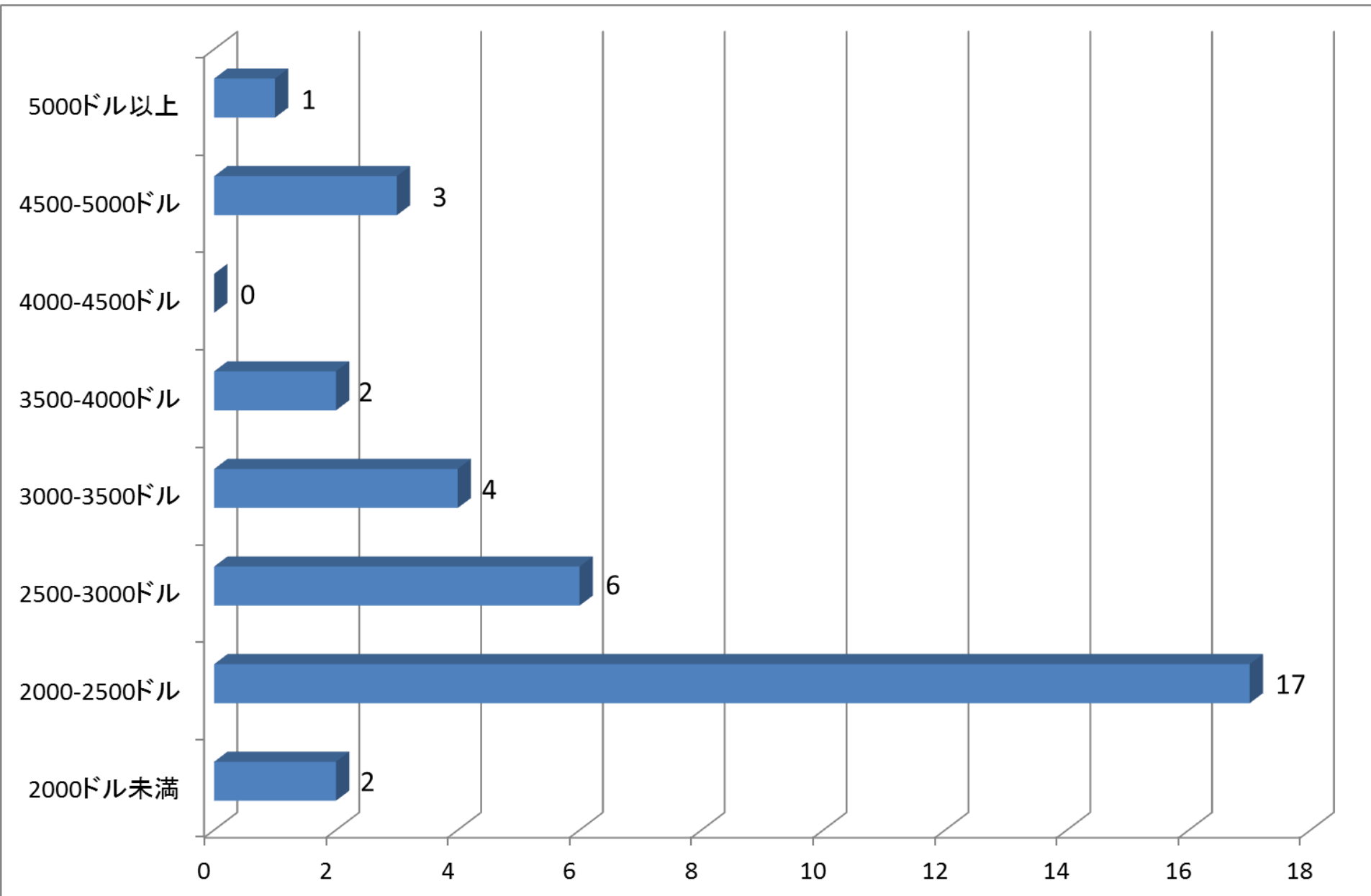


5. 留学の1か月の生活費等

質問(5)

留学中の大体の必要経費
(ひと月あたりでご記入下さい)

5. 留学の1か月の生活費等



6. 留学先の規模は？

質問(6)

留学先規模(ご自身を含めて) 合計 名

そのうち

助教以上()名

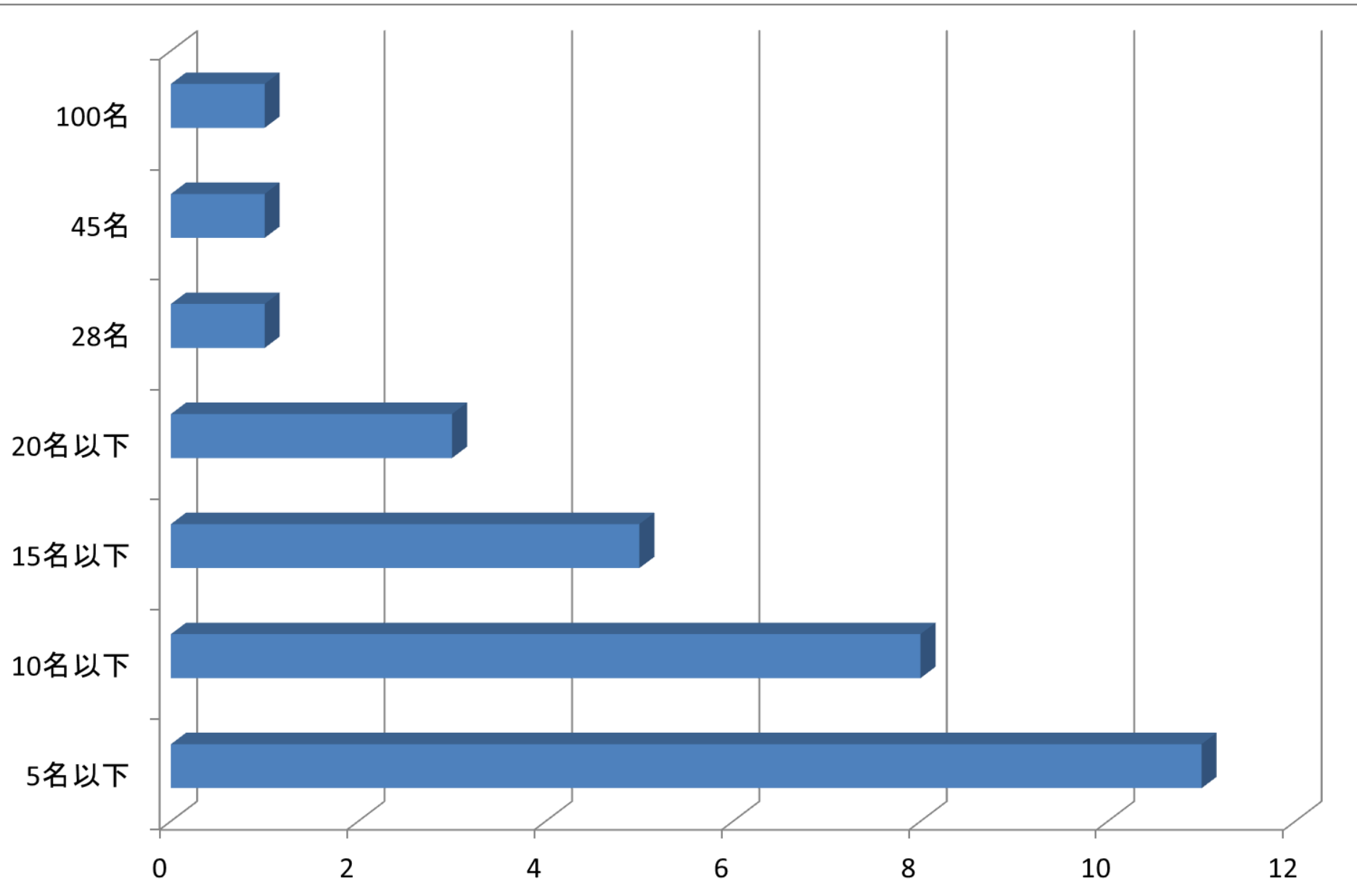
ポスドク ()名

院生 ()名

学生 ()名

実験助手()名

6. 留学先の規模



7. 留学に関するインタビュー

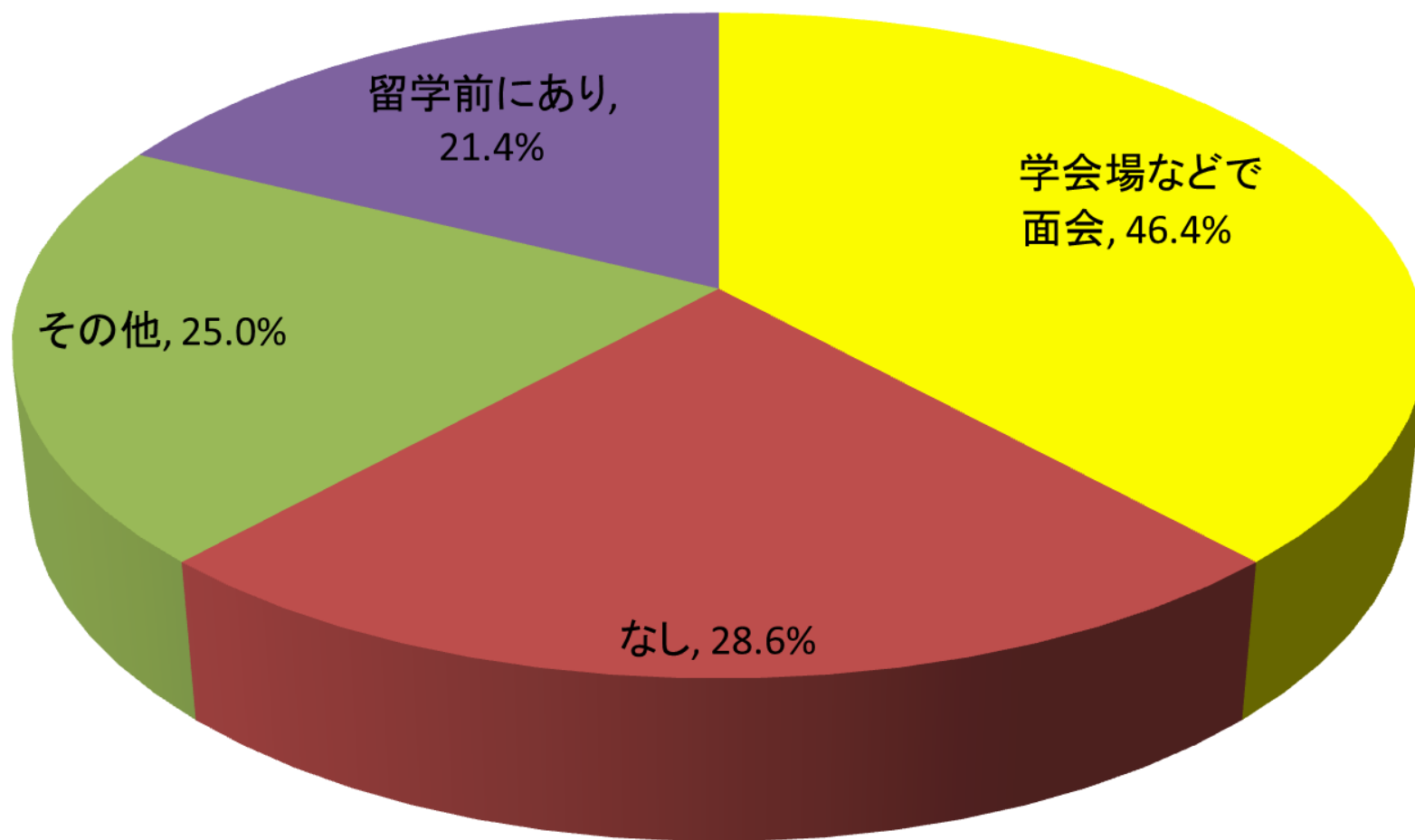
質問(7)

留学に関してインタビューはありましたか？

1つ選んでください

- 1 留学前にあり
- 2 学会場などで面会
- 3 その他
- 4 なし

7. 留学に関するインタビュー



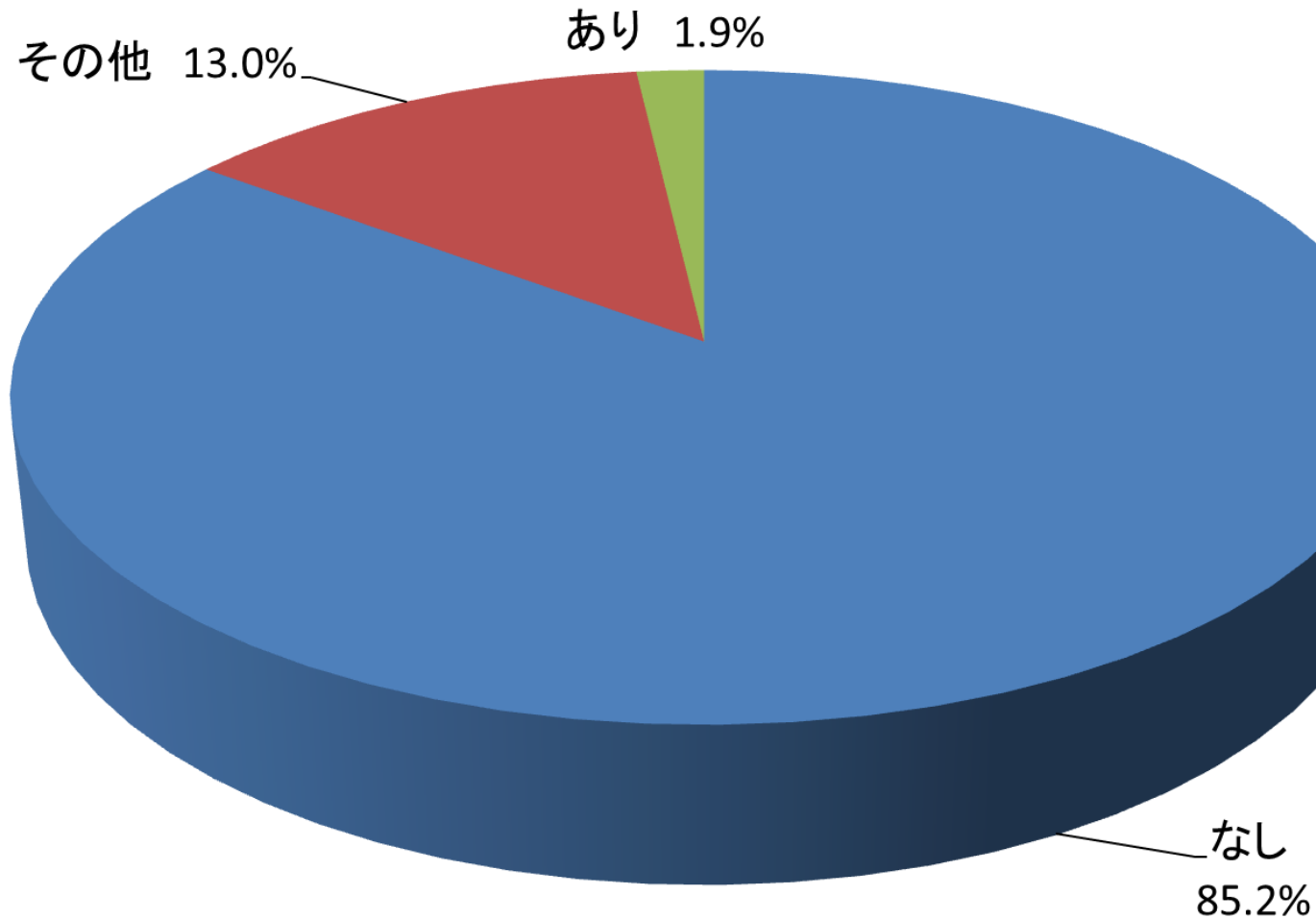
8. 留学力の条件(TOEICなど)

質問(8)

語学力の条件(例 TOEICなど)はありましたか

- 1 あり
- 2 なし
- 3 その他

8. 留学力の条件(TOEICなど)



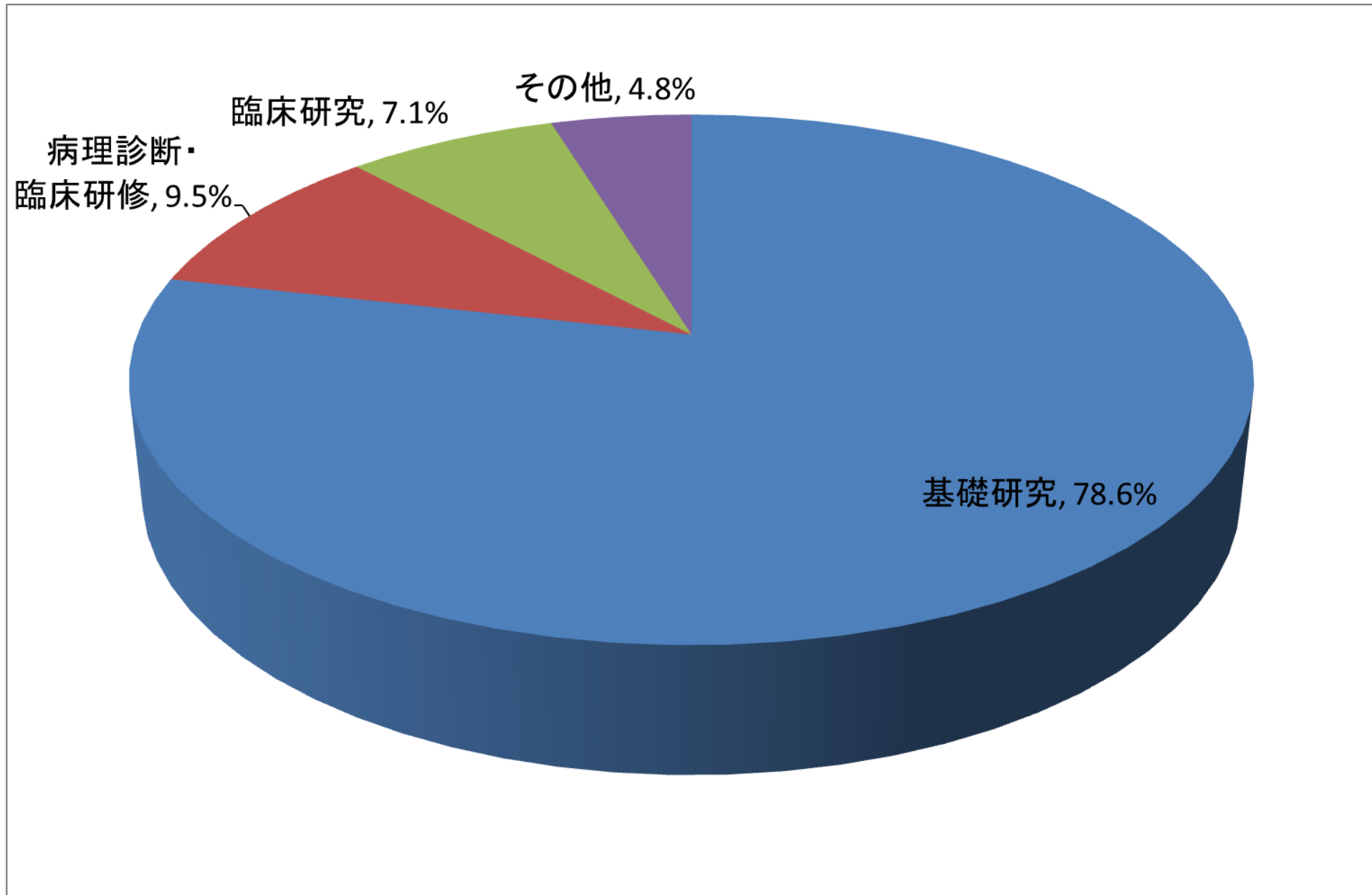
9. 留学の目的

質問(9)

留学の目的に関して下記から該当するもの1つを選んでください

- 1 病理診断臨床研修
- 2 臨床研究(病理標本を使用したものを含む)
- 3 基礎研究
- 4 その他

9. 留学の目的



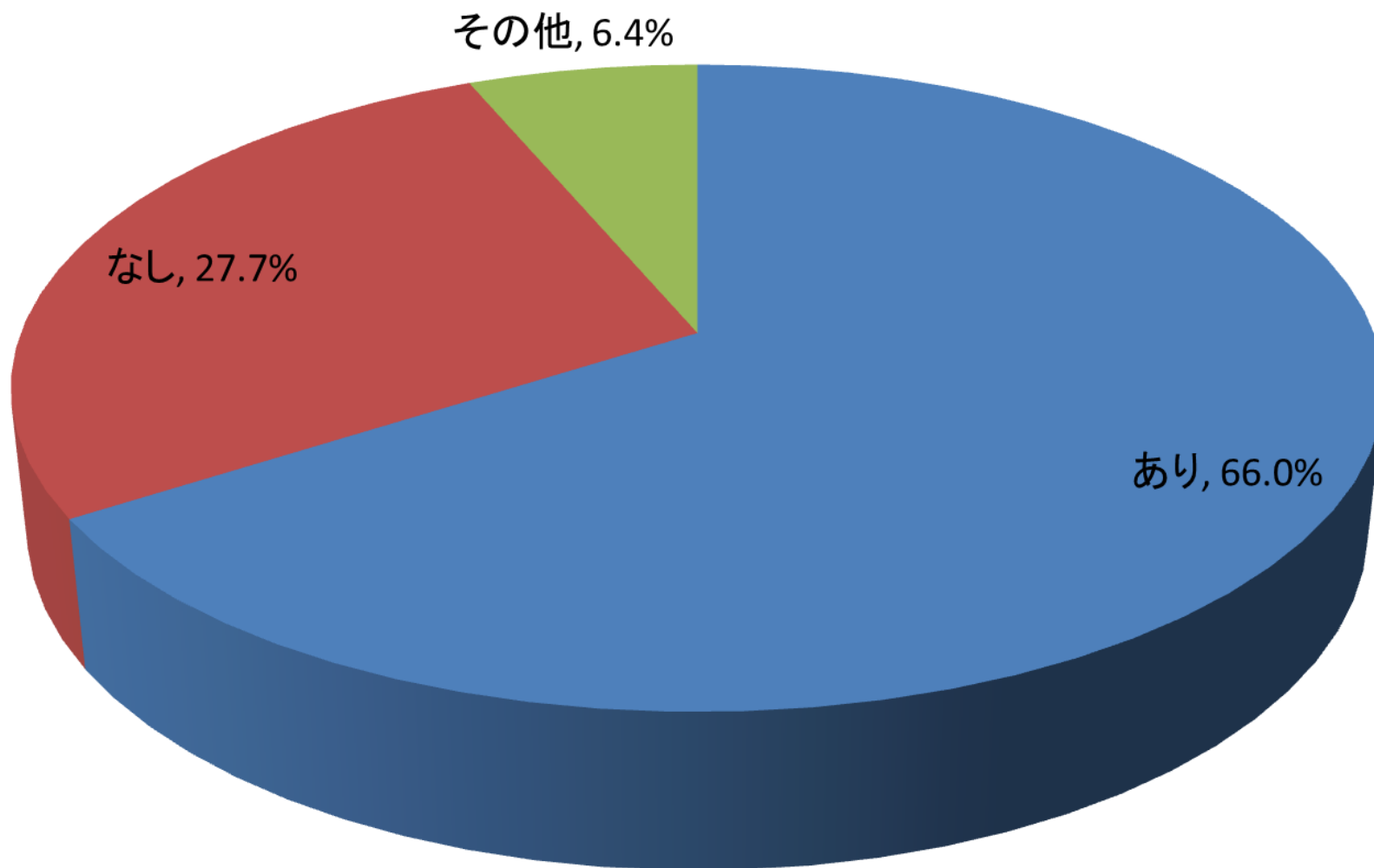
10. 国内で行っていた研究との関連性

質問(10)

国内で行っていた研究との関連は？

- 1 あり
- 2 なし
- 3 その他

10. 国内で行っていた研究との関連性

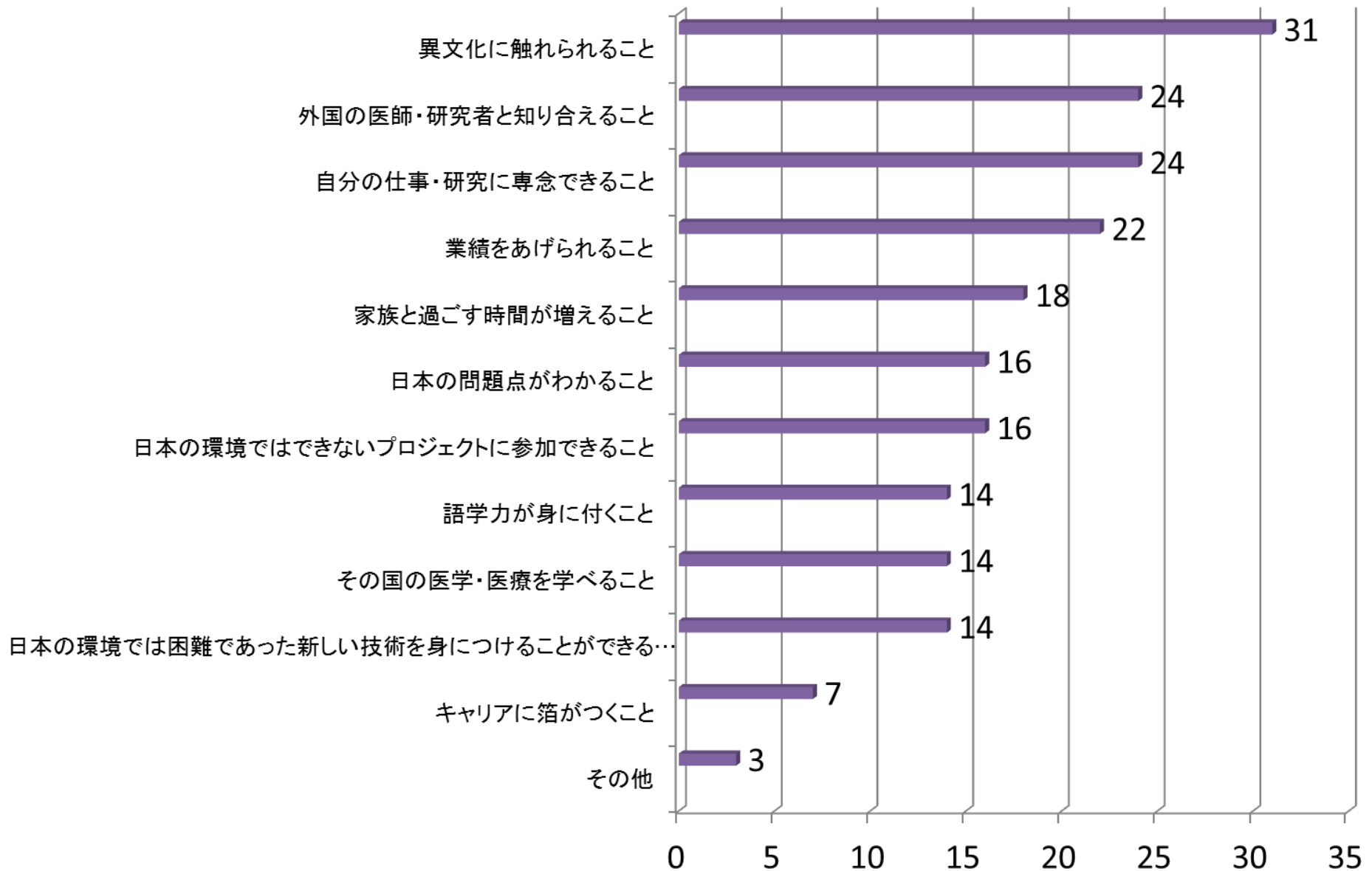


11. 留学のメリット

質問(11) 留学のメリットについてあてはまるものすべてを選んでください

- 1 業績をあげられること
- 2 日本の環境では困難であった新しい技術を身につけることができること
- 3 自分の仕事・研究に専念できること
- 4 外国の医師・研究者と知り合えること
- 5 日本の環境ではできないプロジェクトに参加できること
- 6 その国の医学・医療を学べること
- 7 異文化に触れられること
- 8 家族と過ごす時間が増えること
- 9 語学力が身に付くこと
- 10 日本の問題点がわかること
- 11 キャリアに箔がつくこと
- 12 その他

11. 留学のメリット

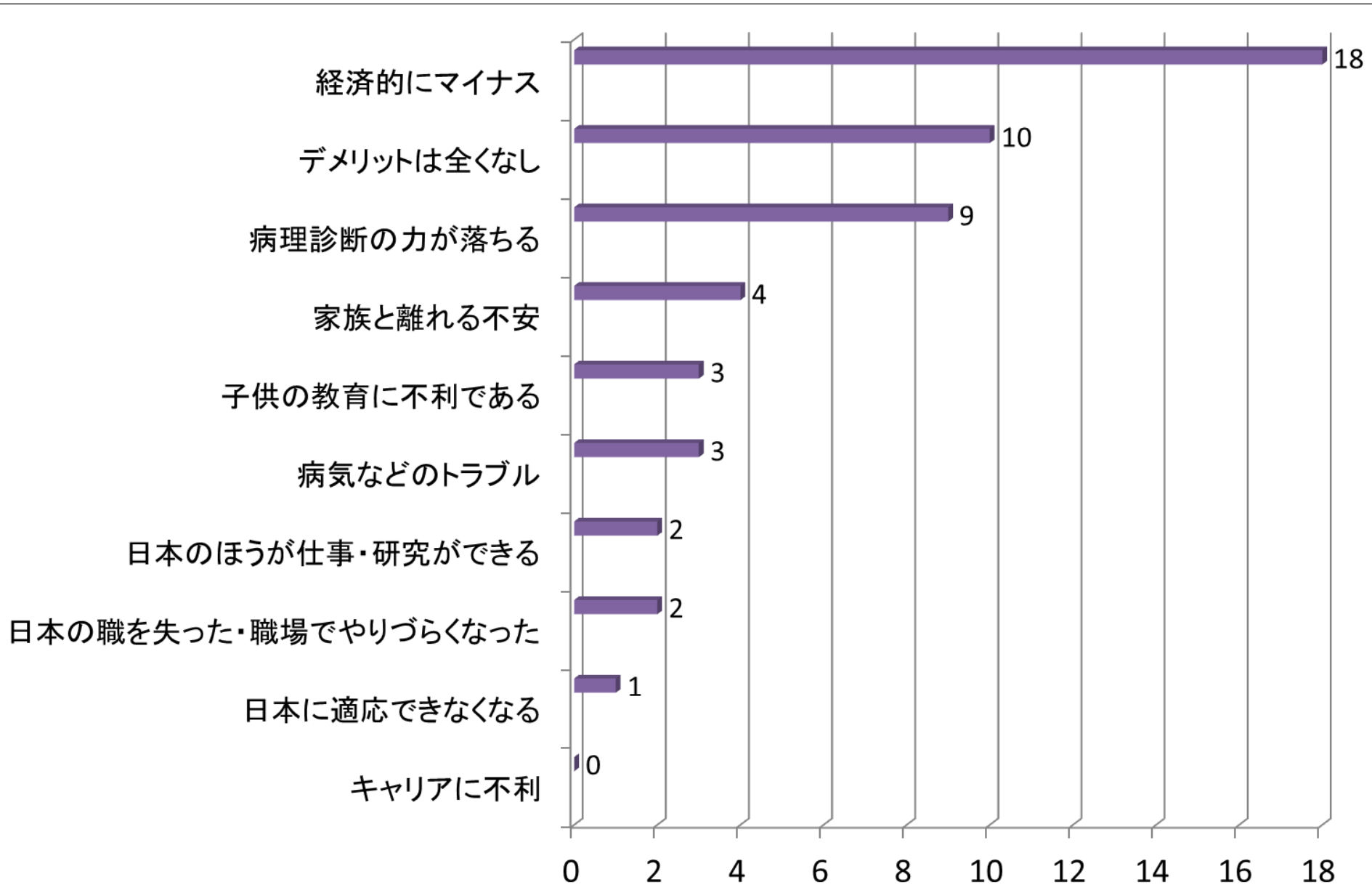


12. 留学のデメリット

質問(12) 留学のデメリットについてあてはまるものすべてを選んでください

- 1 病理診断の力が落ちる
- 2 経済的にマイナス
- 3 キャリアに不利
- 4 日本に適応できなくなる
- 5 日本の職を失った・職場でやりづらくなった
- 6 病気などのトラブル
- 7 日本のほうが仕事・研究ができる
- 8 家族と離れる不安
- 9 子供の教育に不利である
- 10 その他

12. 留学のデメリット



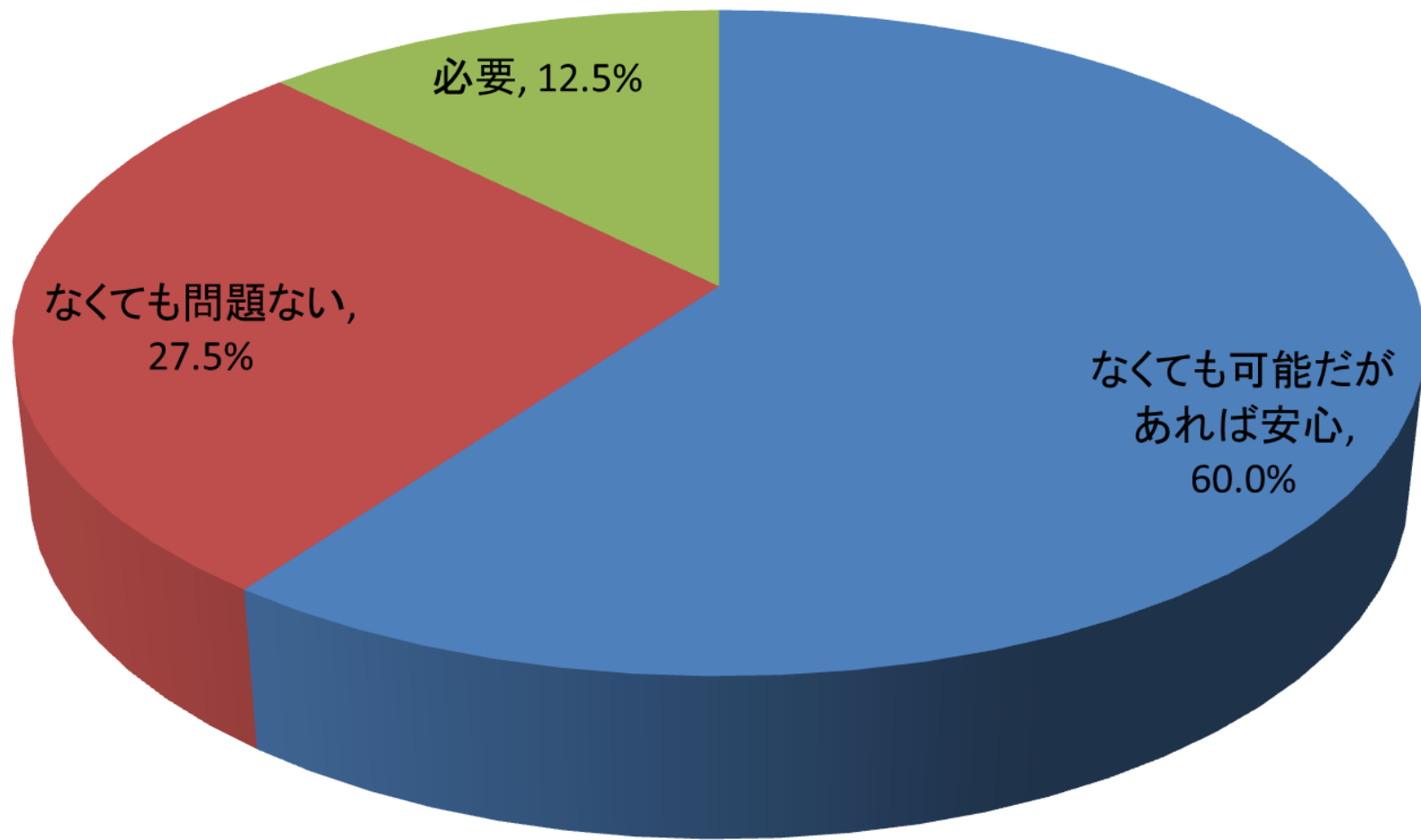
13. 医局というバックグラウンド

質問(13)

医局というバックグラウンドは海外留学に必要でしょうか？

- 1 必要
- 2 なくても可能だがあれば安心
- 3 なくても問題ない

13. 医局というバックグラウンド

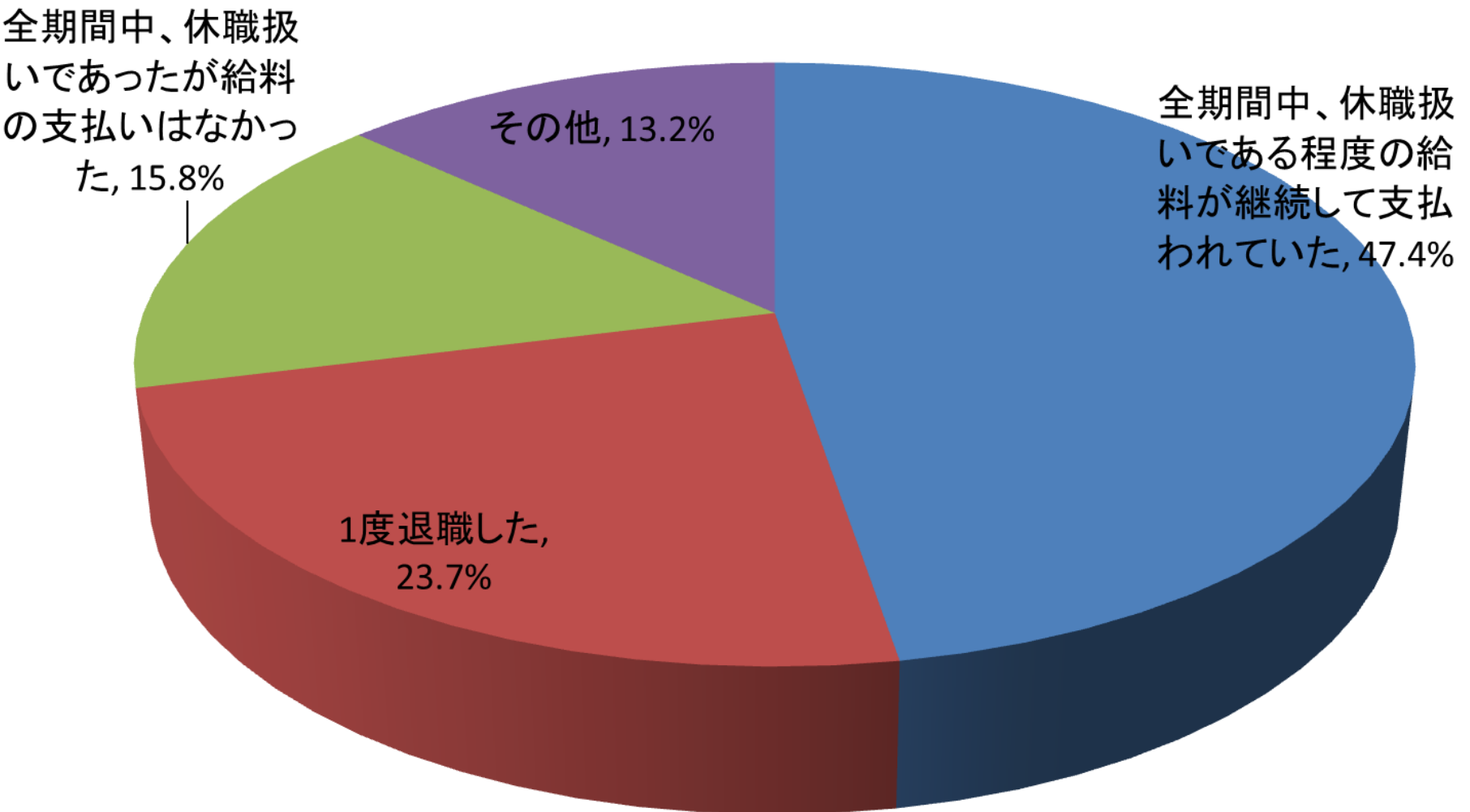


14. 留学中の対応について

質問(14)

- 1 全期間中、休職扱いである程度の給料が継続して支払われていた
- 2 全期間中、休職扱いであったが給料の支払いはなかった
- 3 1度退職した
- 4 その他

14. 留学中の対応



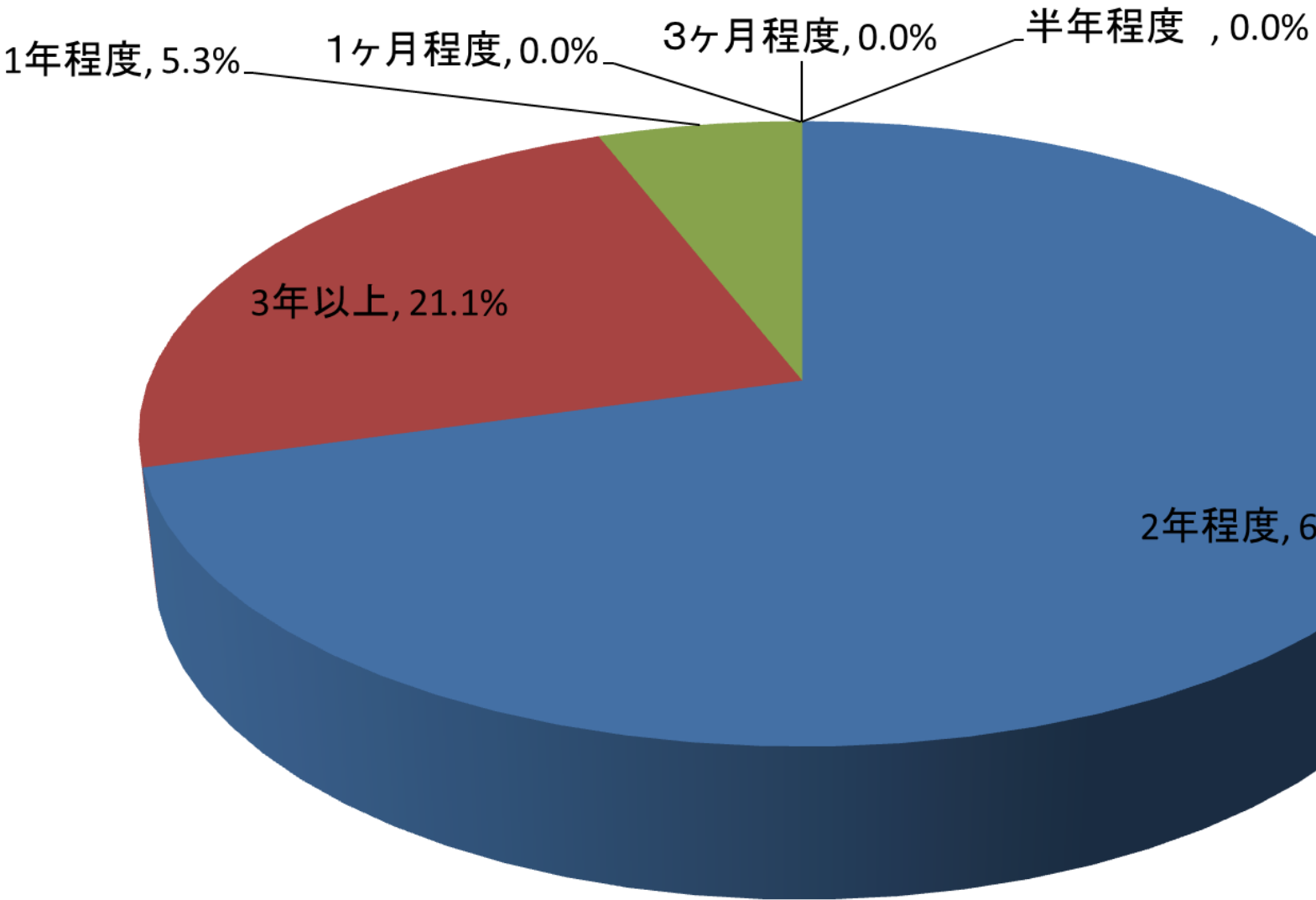
15. 適切な留学期間は？

質問(15)

適切な留学期間は下記のいずれでしょうか？

- 1 1ヶ月程度
- 2 3ヶ月程度
- 3 半年程度
- 4 1年程度
- 5 2年程度
- 6 3年以上

15. 適切な留学期間

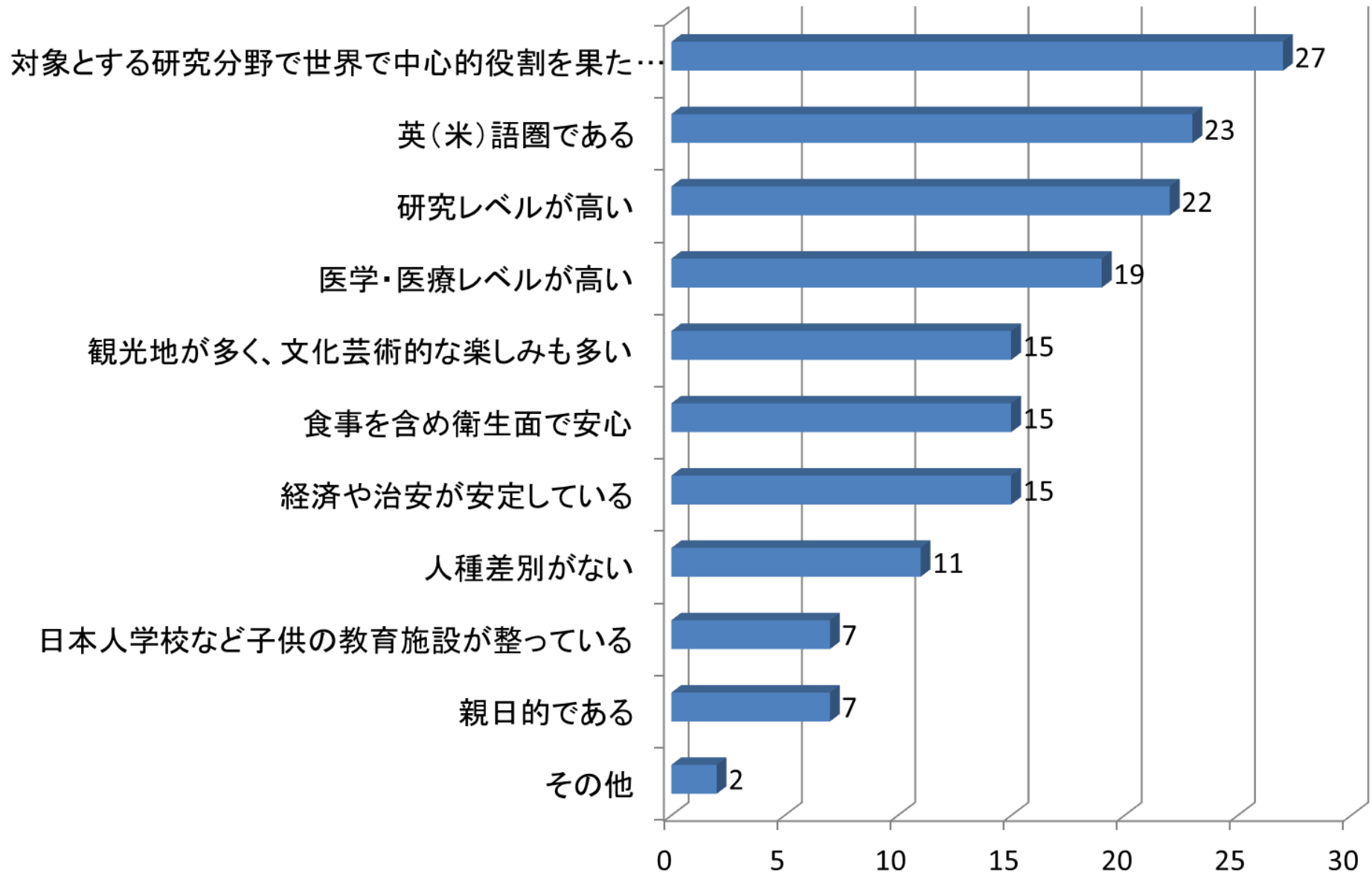


16. 留学した地域の良い点は？

質問(16) ご留学された地域での留学が、世界の他の地域への留学に比べて良い点はどこでしょうか。 あてはまるものすべてを選んでください

- 1 対象とする研究分野で世界で中心的役割を果たしている
- 2 英(米)語圏である
- 3 医学・医療レベルが高い
- 4 研究レベルが高い
- 5 親日的である
- 6 人種差別がない
- 7 経済や治安が安定している
- 8 日本人学校など子供の教育施設が整っている
- 9 観光地が多く、文化芸術的な楽しみも多い
- 10 食事を含め衛生面で安心
- 11 その他

16. 留学した地域の良い点は？

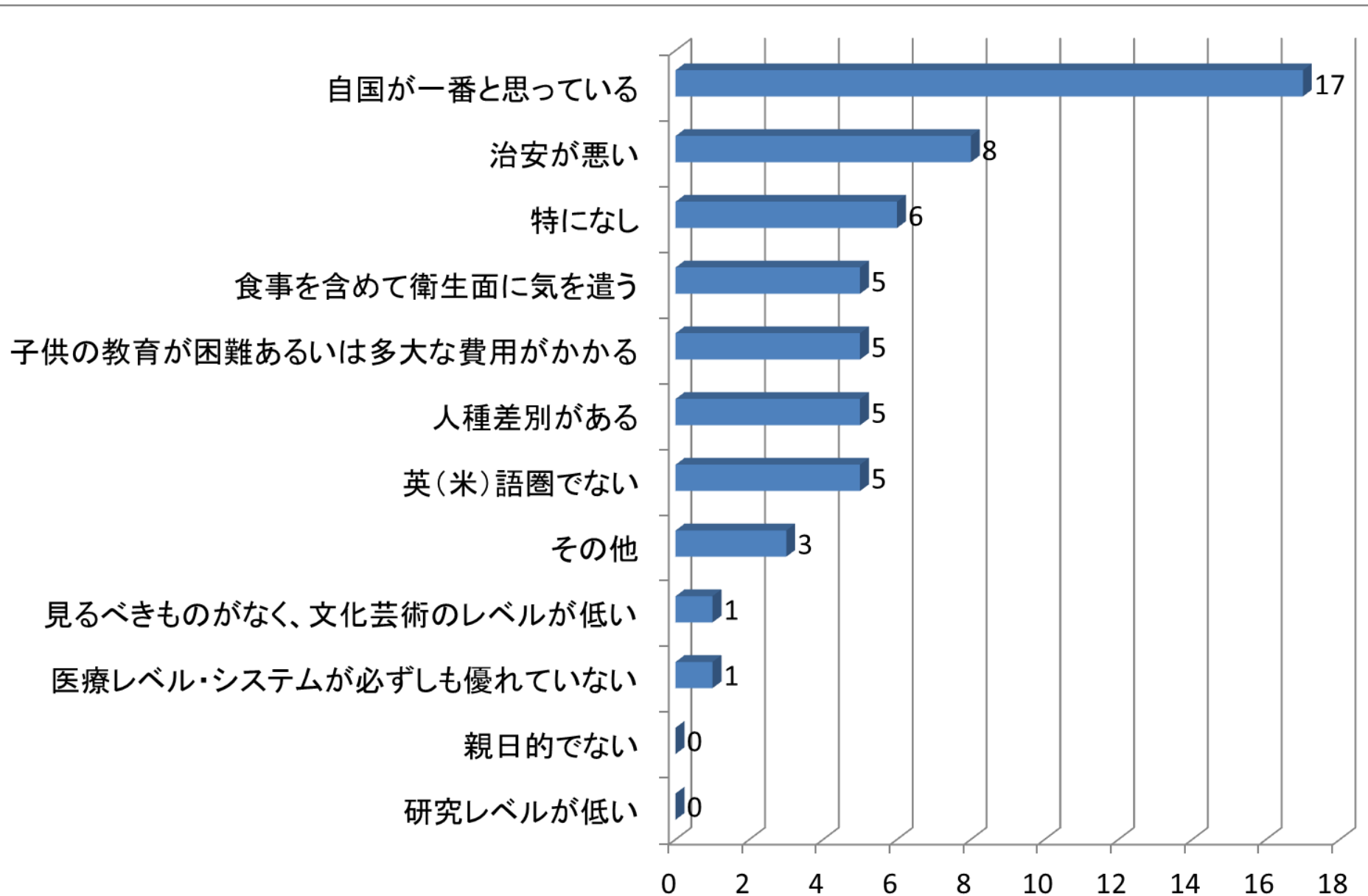


17. 留学した地域の悪い点は？

質問(17) ご留学された地域が、他の地域への留学に比べて悪い点はどこですか？あてはまるものすべてを選んでください

- 1 自国が一番と思っている
- 2 英(米)語圏でない
- 3 医療レベル・システムが必ずしも優れていない
- 4 研究レベルが低い
- 5 親日的でない
- 6 人種差別がある
- 7 治安が悪い
- 8 子供の教育が困難あるいは多大な費用がかかる
- 9 見るべきものがなく、文化芸術のレベルが低い
- 10 食事を含めて衛生面に気を遣う
- 11 その他

17. 留学した地域の悪い点は？



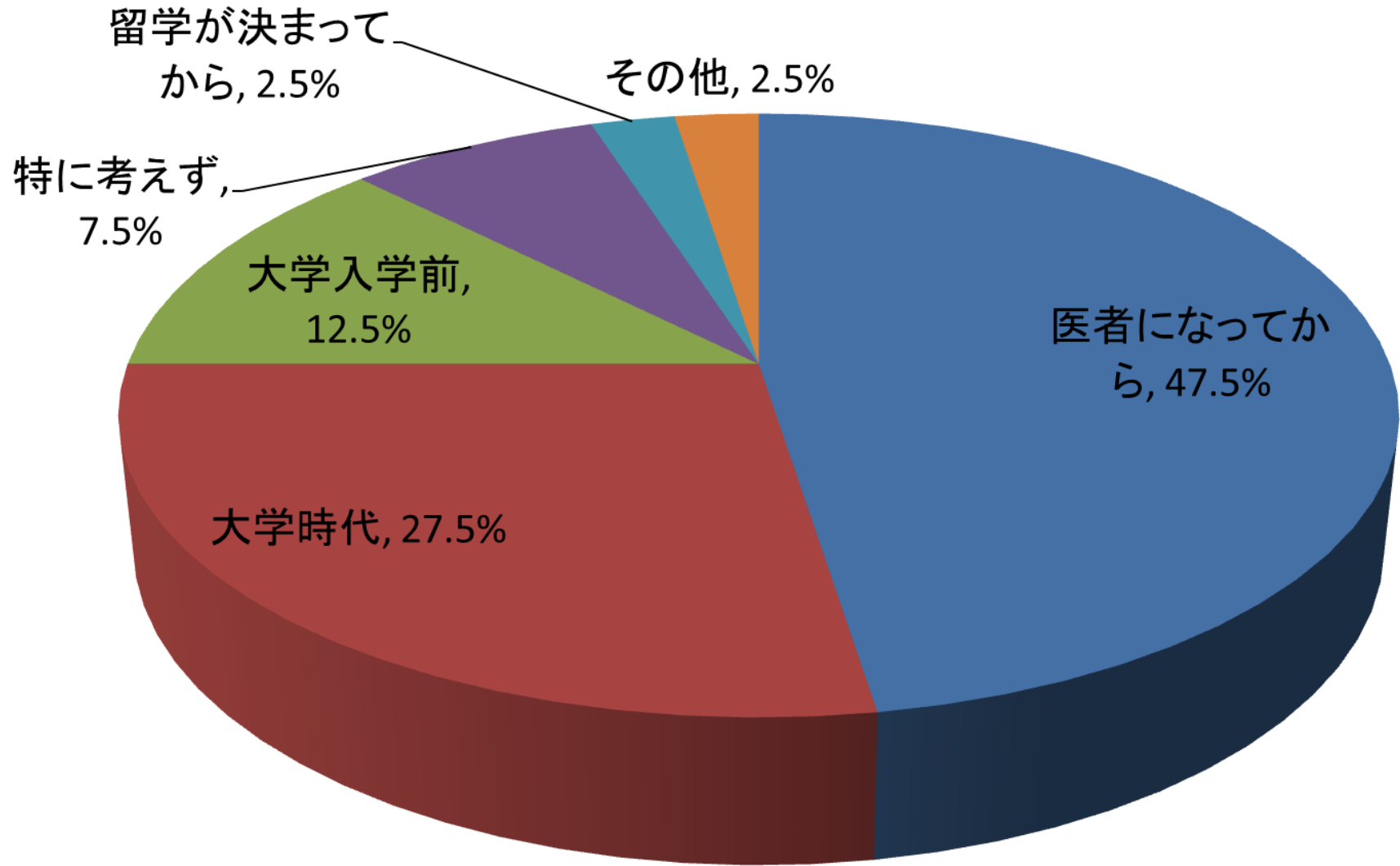
18. 留学を考えた時期は？

質問(18)

海外留学したいといつ頃から考えられていましたか？1つ選んでください

- 1 大学入学前
- 2 大学時代
- 3 医者になってから
- 4 留学が決まってから
- 5 特に考えず
- 6 その他

18. 留学を考えた時期は？



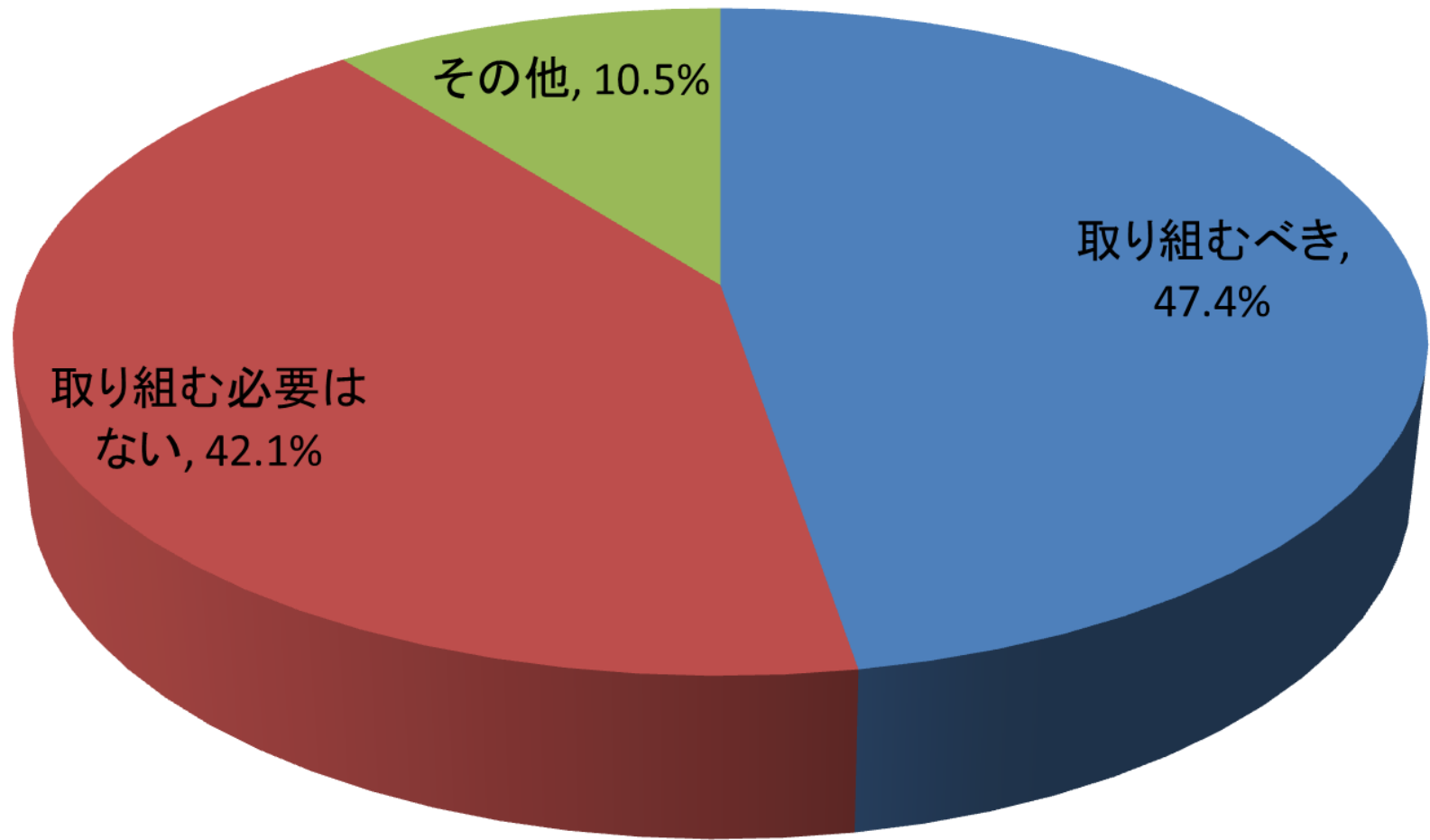
19. 学会としての取り組み

質問(19)

学会として信頼できる留学先などの紹介等に取り組むべきだと思いますか？

- 1 取り組むべき
- 2 取り組む必要はない
- 3 その他

19. 学会としての取り組み



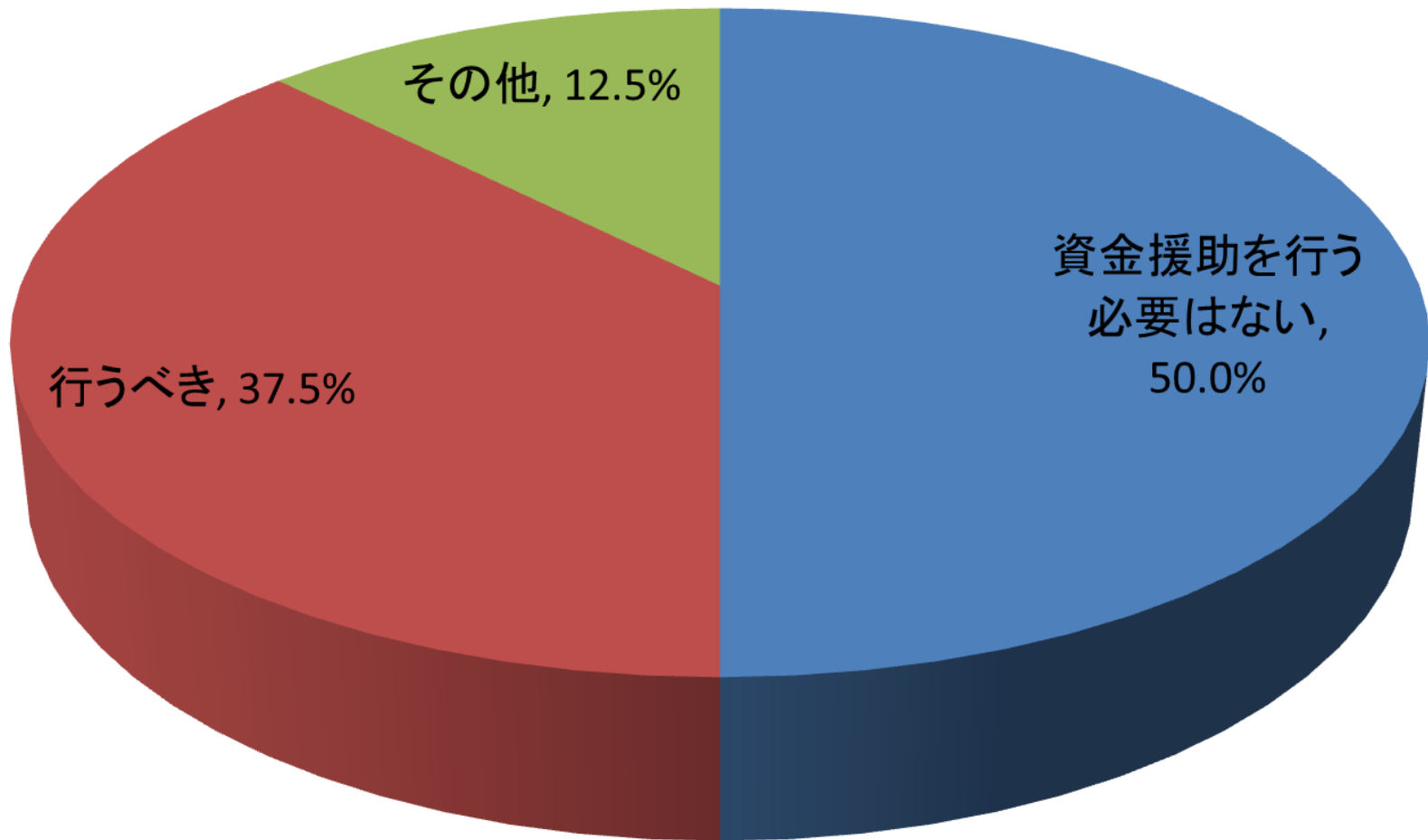
20. 学会として資金援助を行うべきか

質問(20)

学会として留学資金等の援助を行うべきだと思いますか？

- 1 思う
- 2 思わない
- 3 その他

20. 学会として資金援助を行うべきか



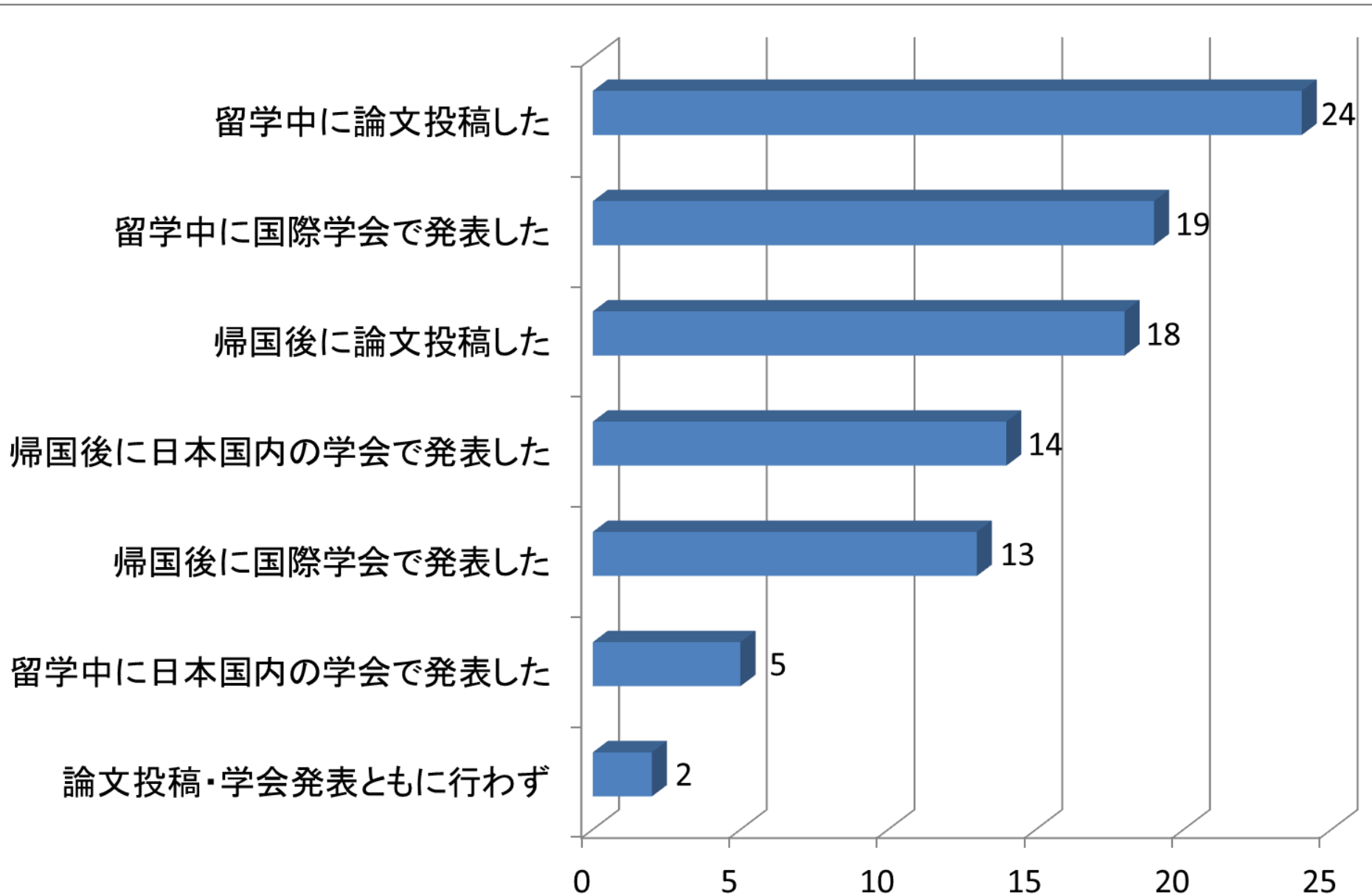
21. 留学での業績

質問(21)

留学での業績について、あてはまるものをすべて選んでください

- 1 留学中に論文投稿した
- 2 帰国後に論文投稿した
- 3 留学中に国際学会で発表した
- 4 帰国後に国際学会で発表した
- 5 留学中に日本国内の学会で発表した
- 6 帰国後に日本国内の学会で発表した
- 7 論文投稿・学会発表ともに行わず
- 8 その他

21. 留学での業績



22. 帰国後の研究の継続

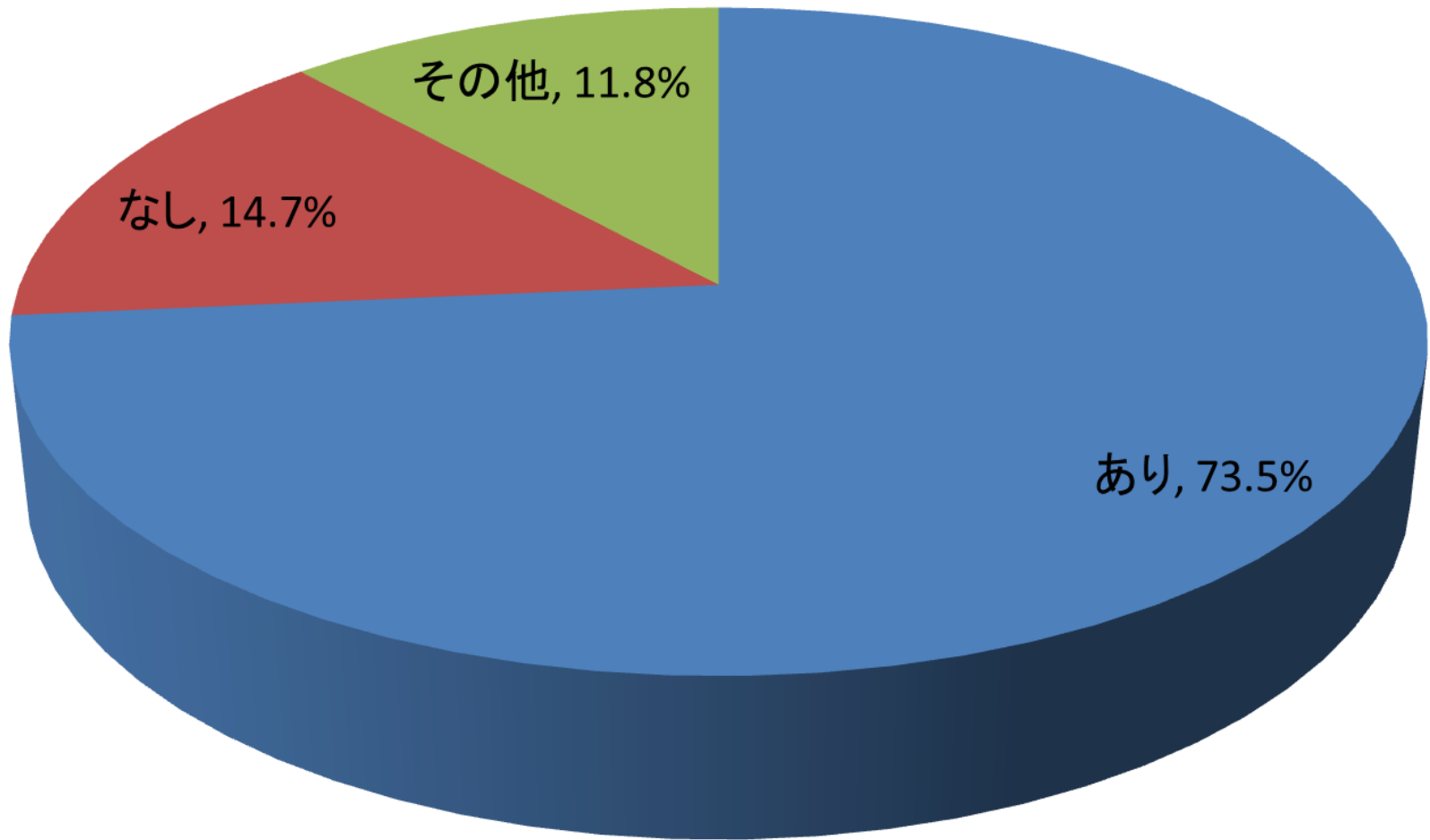
質問(22)

国内での類似の研究の継続は？

1つ選んでください

- 1 あり
- 2 なし
- 3 その他

22. 帰国後の研究の継続



23. 帰国後の留学先との交流

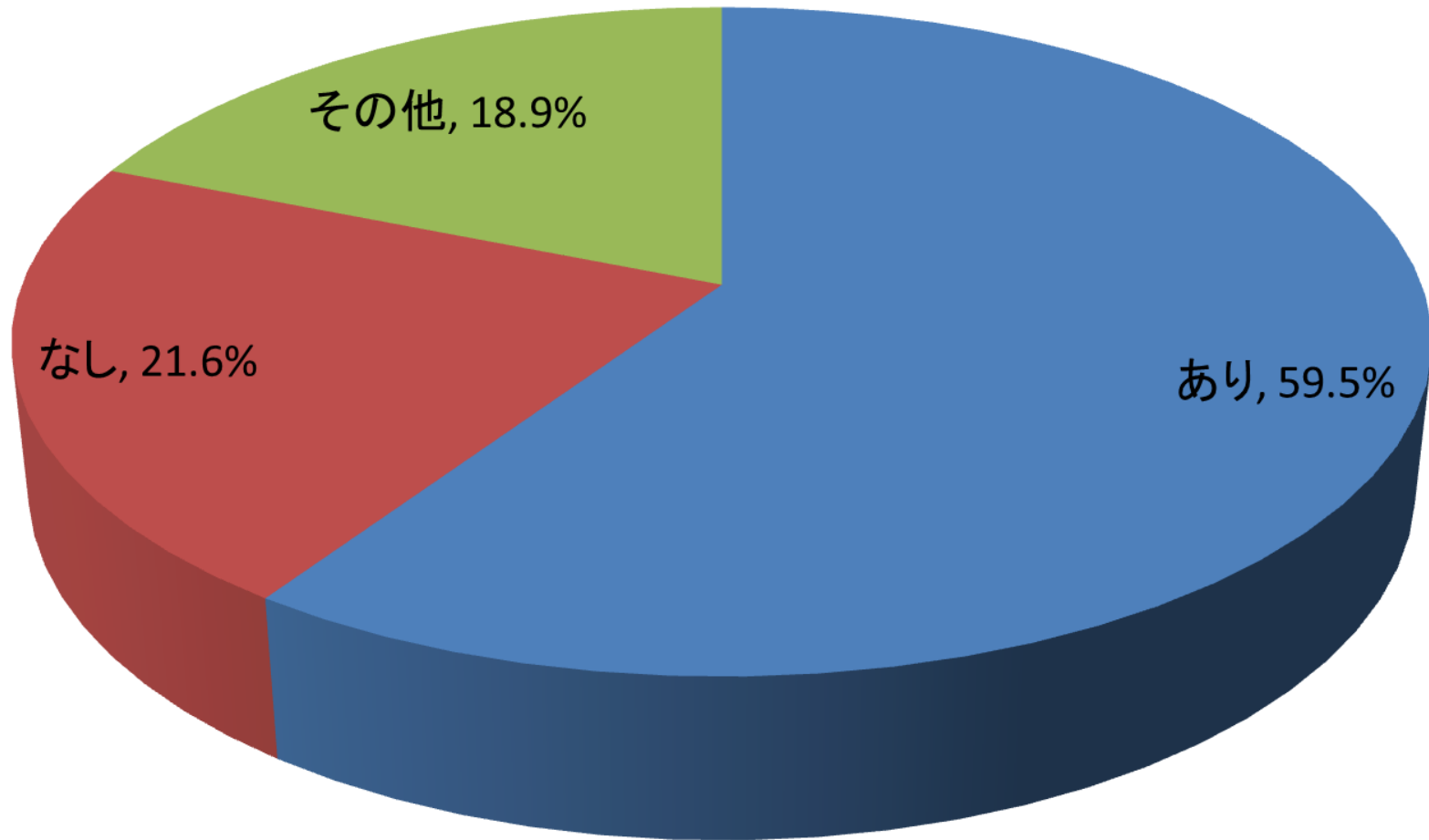
質問(23)

帰国後の留学先との交流は？

1つ選んでください

- 1 あり
- 2 なし
- 3 その他

23. 帰国後の留学先との交流



24. 後輩などが同じ部署に留学したか

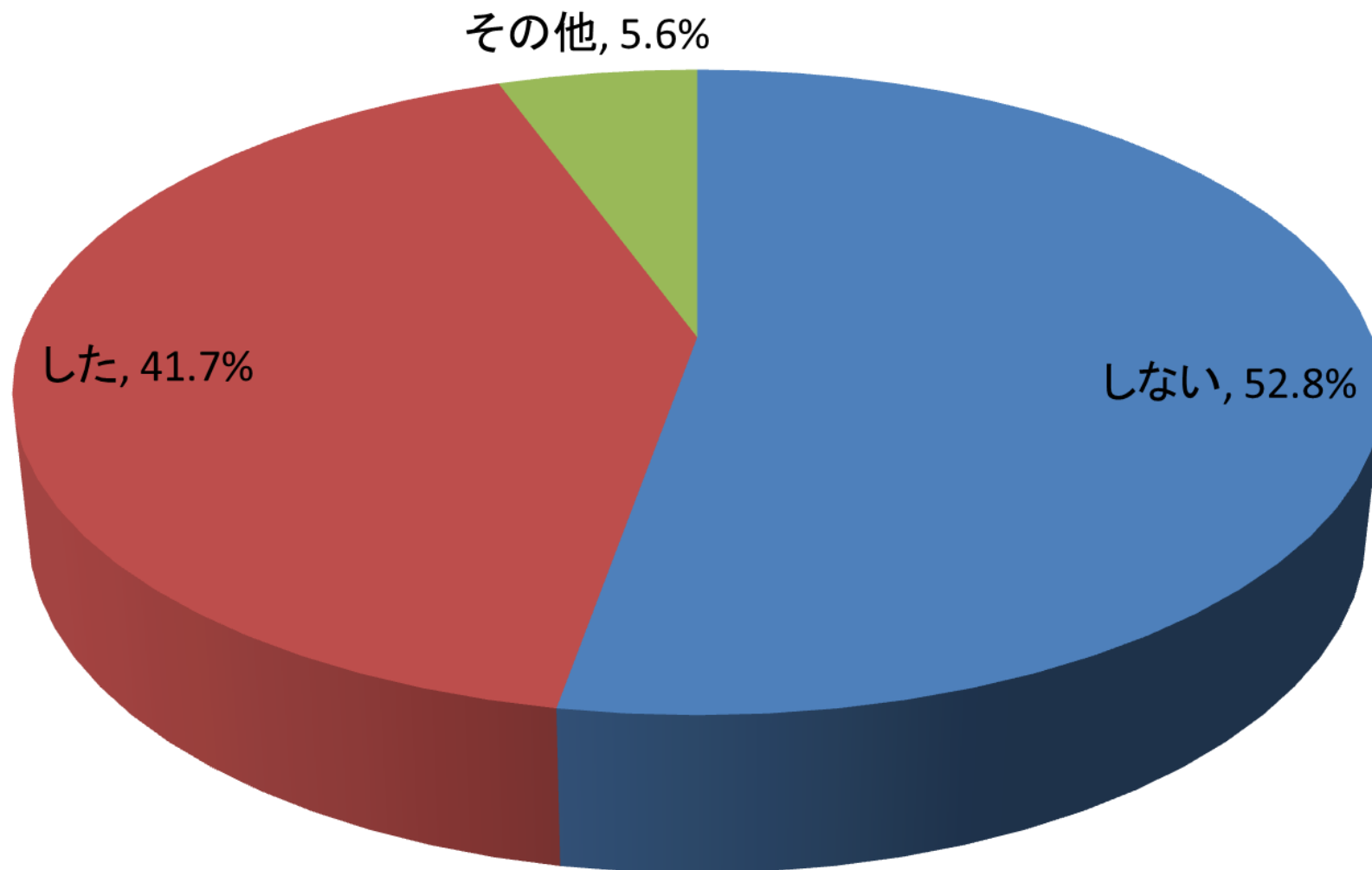
質問(24)

後輩などが同じラボに留学しましたか？

1つ選んでください

- 1 した
- 2 しない
- 3 その他

24. 後輩などが同じ部署に留学したか



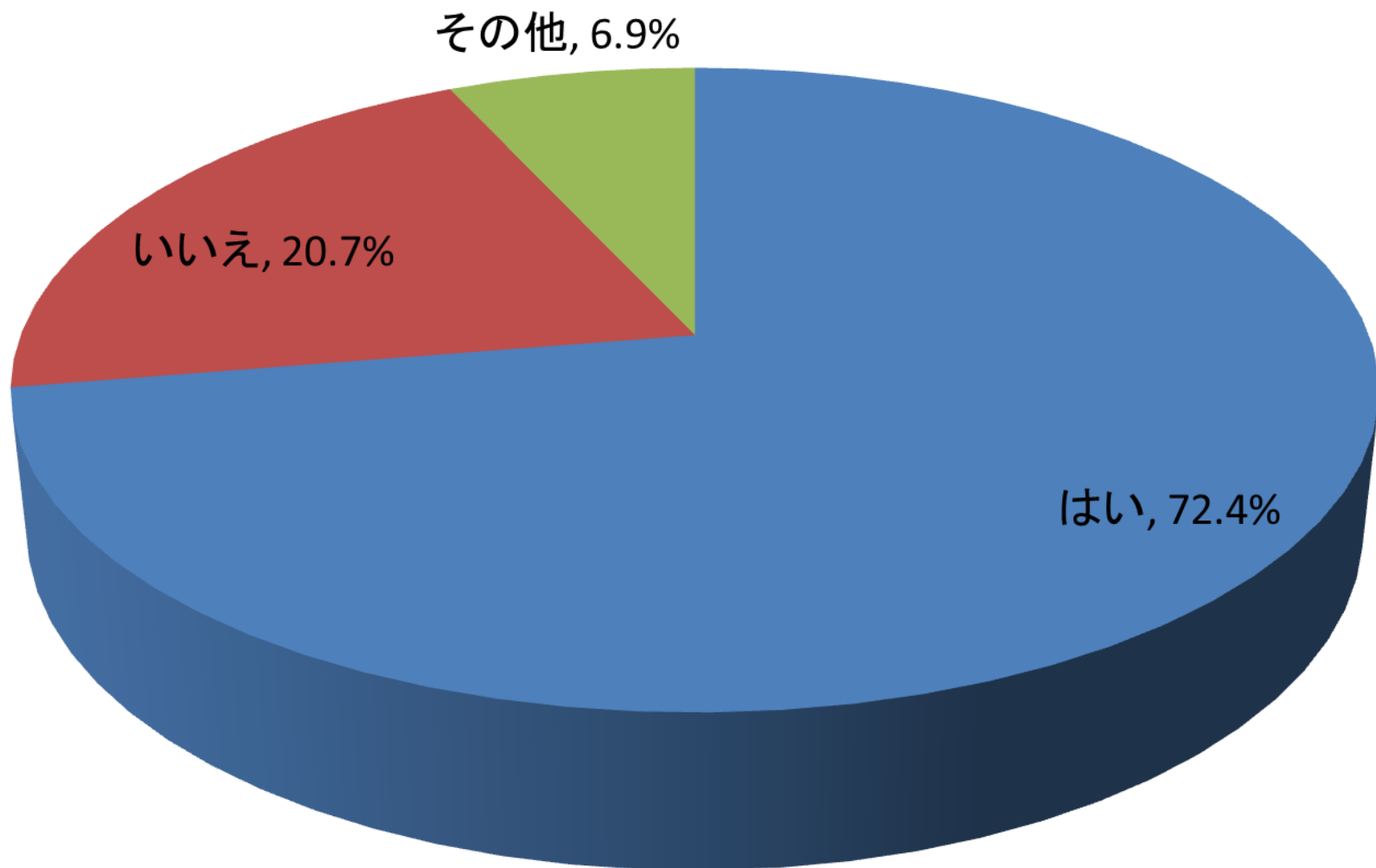
25. 帰国後グラント取得に有効であったか

質問(25)

留学先での業績は帰国後のグラント取得に有効
だったと思いますか

- 1 はい
- 2 いいえ
- 3 その他

25. 帰国後グラント取得に有効であったか



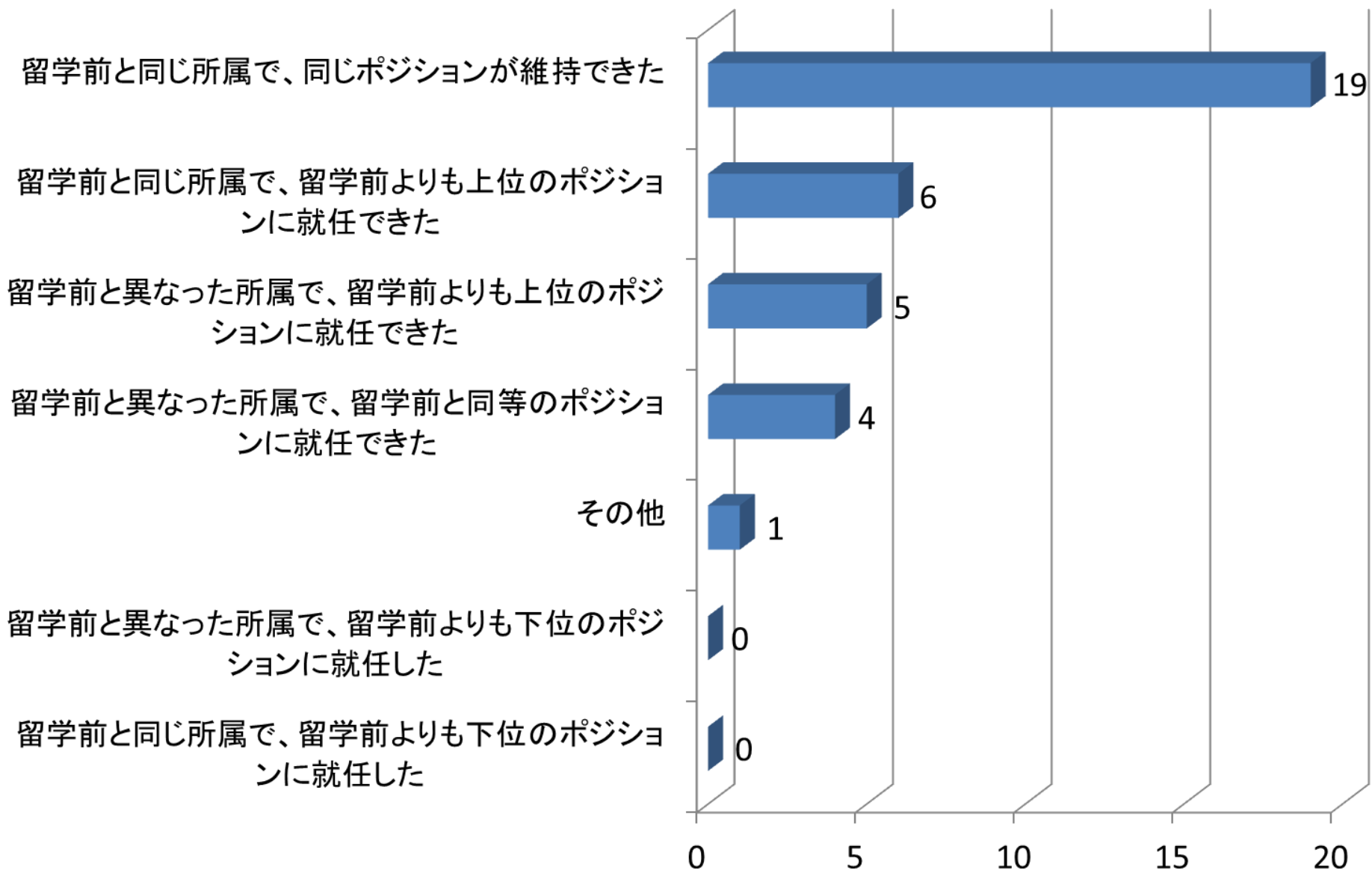
26. 帰国後のポジション

質問(26)

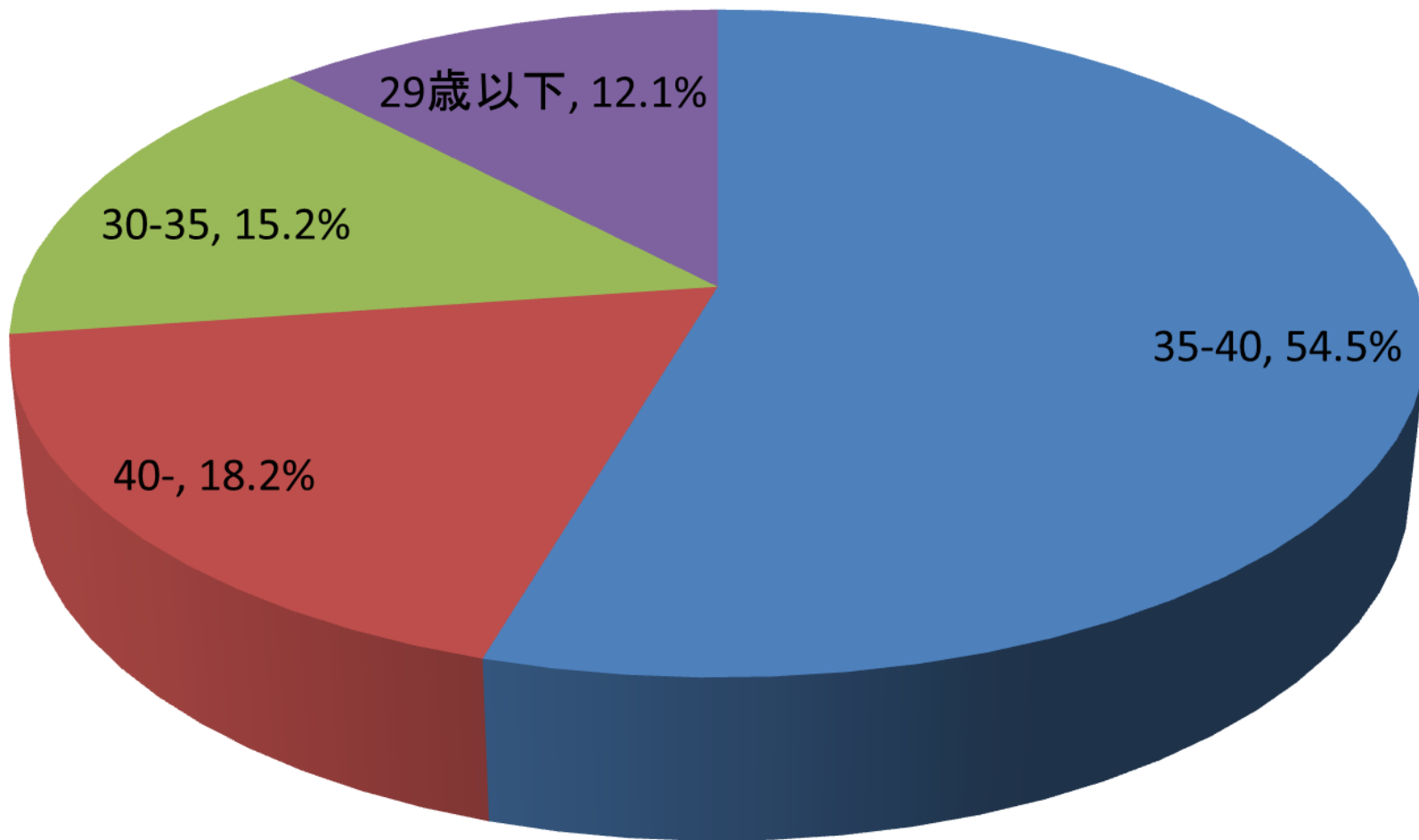
帰国直後、留学前のポジションを維持できましたか？

- 1 留学前と同じ所属で、同じポジションが維持できた
- 2 留学前と異なった所属で、留学前と同等のポジションに就任できた
- 3 留学前と同じ所属で、留学前よりも上位のポジションに就任できた
- 4 留学前と異なった所属で、留学前よりも上位のポジションに就任できた
- 5 留学前と同じ所属で留学前よりも下位のポジションに就任した
- 6 留学前と異なった所属で、留学前よりも下位のポジションに就任した
- 7 その他

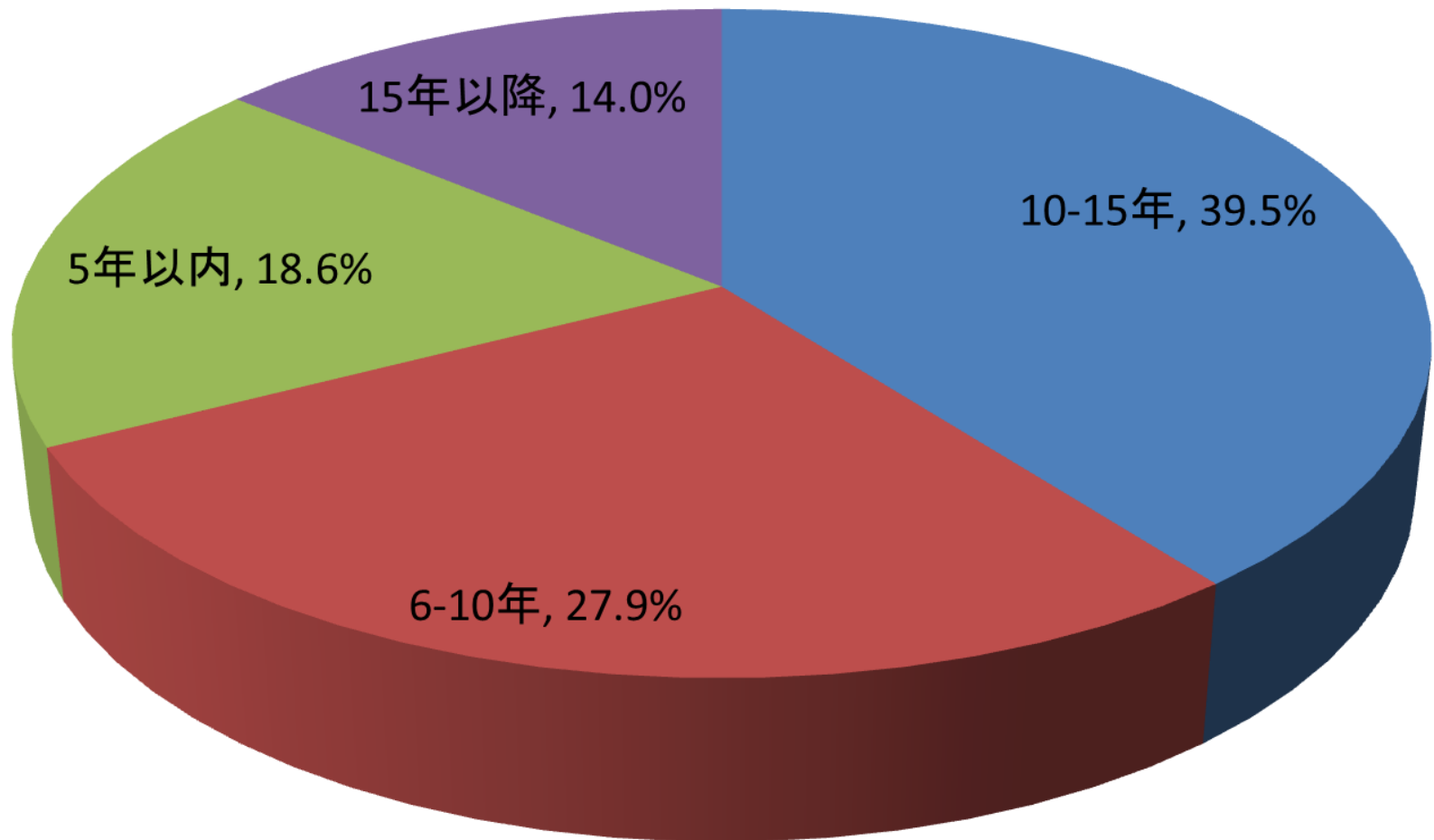
26. 帰国後のポジション



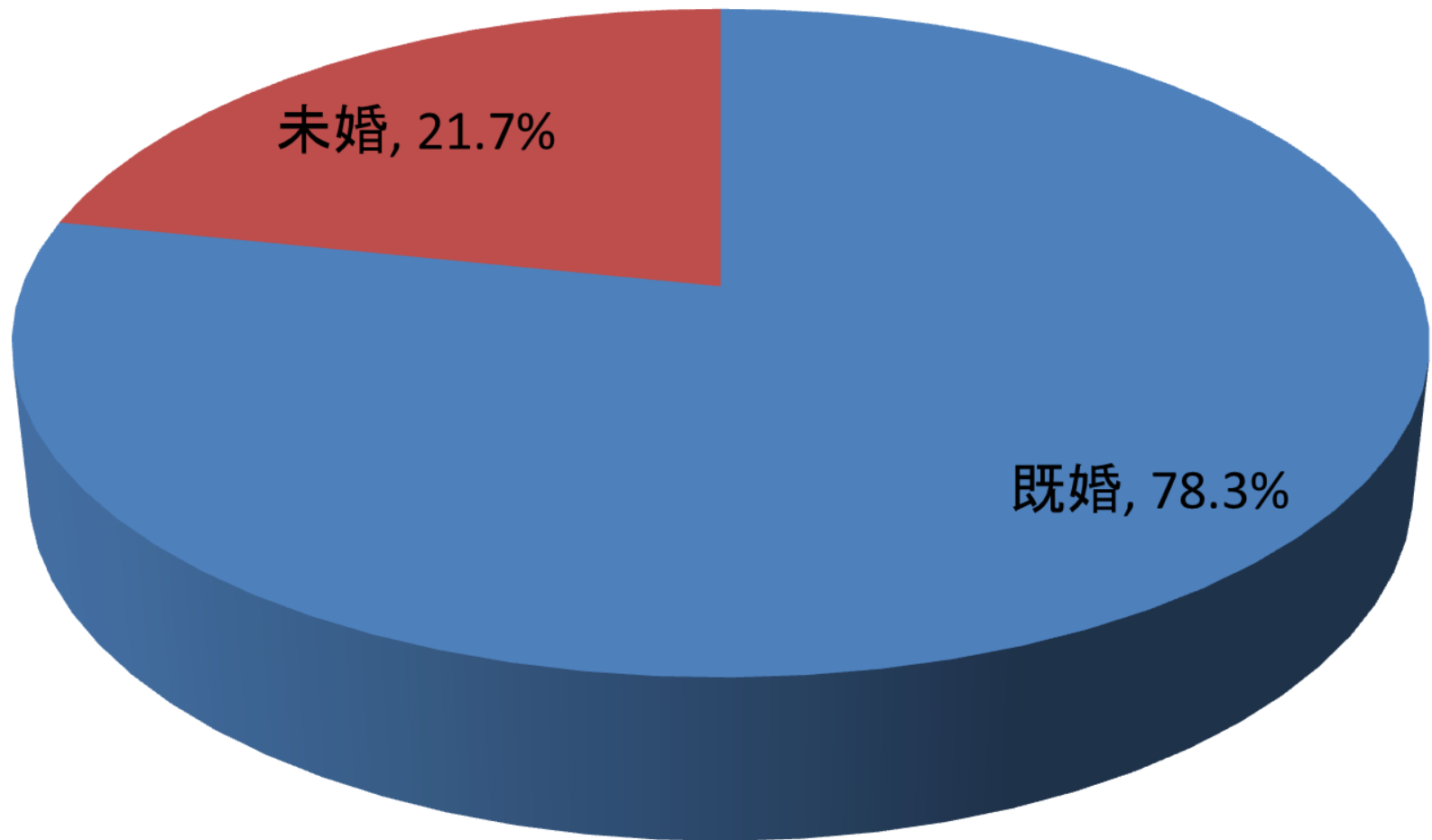
27. 留學時年齡



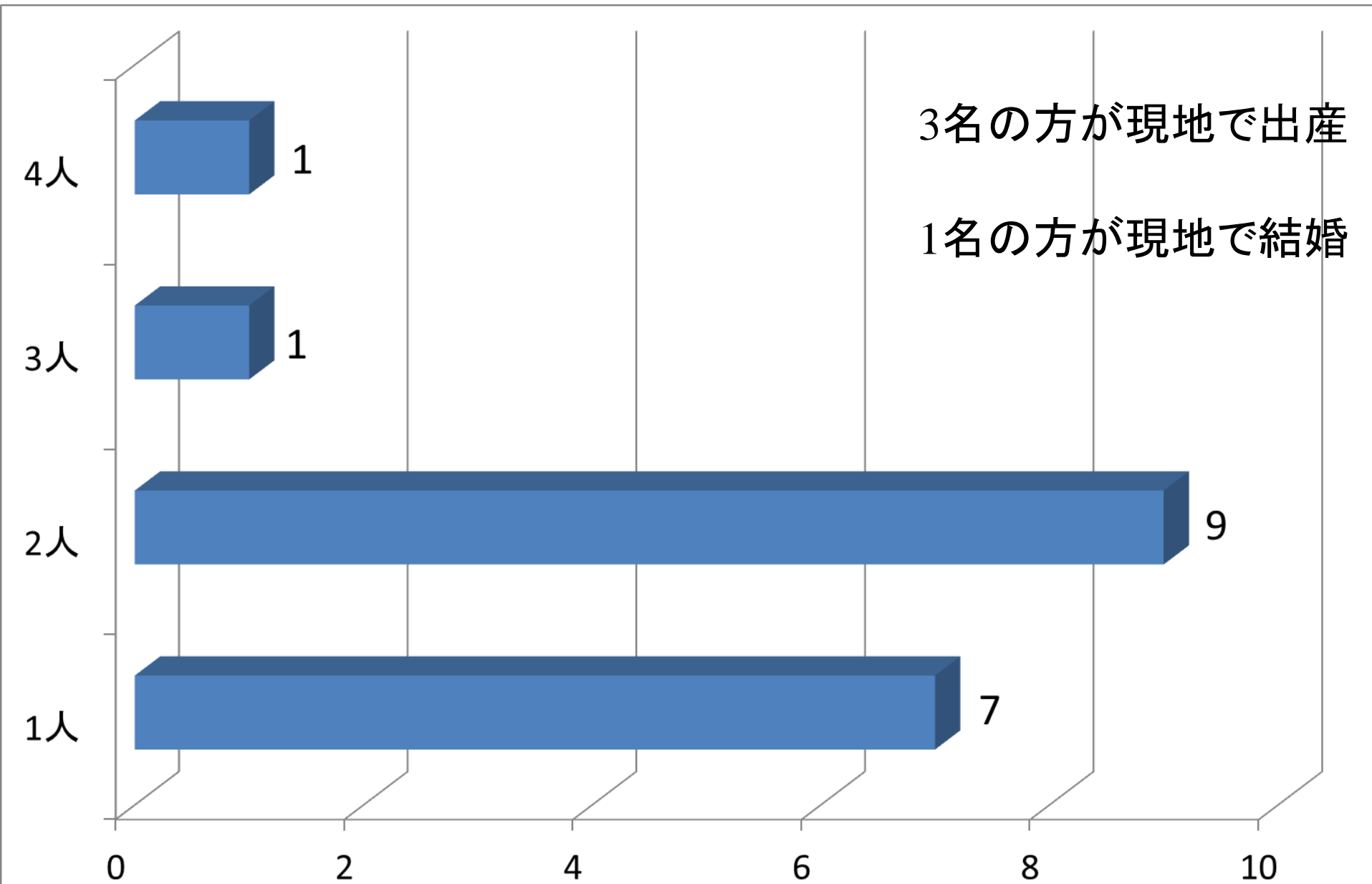
28. 卒後年数



29. 留学時の既婚・未婚割合



30. 引率した子供の人数



31. 留学で苦勞したこと フリーコメント

* 文化の違いへの対応

* 内耳の発生や病理について予備知識がなく、まったく新規の研究課題であったので解剖・組織学、生理学などゼロからのスタートで、研究が軌道に乗るまで苦勞した。英語力はそれなりに自身があったが、現地ではほとんど通用しなかった。銀行の口座を開いたり、車の購入や保険の契約、自動車免許の取得など、生活面で慣れるまでは英語では苦勞した。一度、お金を使い過ぎて現地の銀行口座が破産したときは非常に困った。日本円を両替できる銀行がないほど田舎だったので大変でした。

* 語学

* 1.滞在許可等の書類手続きの煩雑さ 2.イタリア留学者が周囲に殆どいないため情報収集が困難 3.イタリア語会話 4.文化ライフスタイルの違い

* 英語と異国での常識の違い

* あまりないが(苦勞と感じなかっただけなのかも知れない)、「退職してまで留学する意味があるのか」、「今は留学しても箔は付かないよ」などなど、ネガティブなことをいうしたり顔の人達がいて閉口した

* 家族同伴でしたが、なんと言っても日々の生活と子供の教育に気を使いました

* 公的文書や各種届出の案内など、現地語(スウェーデン語)で記載されているものが少なくなく、現地での生活に重要な情報の取得に苦勞しました

* 物価が高く、生活用品(家電製品など)や日本食の確保が困難でした

31. 留学で苦勞したこと フリーコメント

- * 研究成果がなかなかでない時期はつらかった
- * 子供の学校; 平日は現地校、土曜日は日本人学校: 子供達も大変だったと思うが、自分も、現地校の宿題をこなすのに最初の頃はかなり苦勞した
- * 語学力、サイエンスに対しての哲学、考え方が不足していたこと
- * 妻と子供三人を連れての留学だったので、生活のセットアップに苦勞したが、今思えば忘れがたいいい経験となった
- * 語学力 特に毎週行われる結果報告とdiscussion
- * 実験器具、機材、試薬の発注などの準備
- * 体調を崩して大変だった
- * 親、親戚などの具合が渡航中に悪くなり、対応に苦慮した
- * 留学中に怪我をしたため治療するのに苦勞した
- * コミュニケーション(語学)の問題、研究室では通じるが、一般社会で会話が通じないことがあった。当初は生活基盤の確立に苦勞した
- * 前任者がいなかったためセットアップに苦勞した
- * 運転免許の取得、部屋を借りる、住民票など生活のセットアップが大変でした。ラボの人たちが手伝ってくれなければどうなっていたか分からないといった感があります
- * 当初は言葉の問題、生活費で苦勞したが、半年後に有給のポジションを得られた

31. 留学で苦労したこと フリーコメント

- * 分化の違い。職場外での苦労が多かった(契約、レストラン、パーティー招待など)
- * ディベートの文化がなかったので、討論で苦労した
- * 自己アピールが苦手だったので、自分を理解してもらうのに時間が掛かった
- * ネイティブの英語、とくにラボ外で、ついていけなかった
- * 当初は先方から125ドルの月給で安かったが、実力を認めてもらってからは、2200ドルに上がった。それに小さいラボだったが、頑張れば評価してくれるボスだったので本当にやりやすかった
- * 日本よりは不便で、自分が責任を持ってやらなければいけないこと
- * 子供が小さかったので(生後3か月～5歳の4人連れ)、何かにつけて家庭のことを優先せざるを得なかったこと(でも楽しかった)
- * 筆頭著者になる資格があると確認していたにも関わらず、データが出そろい始めると、その資格はないといわれたこと
- * 最大の困難は、英語による意志疎通でした。簡単な話なら分かりますが、細かいことや複雑なことを討論するときには苦労しました
- * 言葉が慣れない。言いたいことが言えない。金銭面

32. 留学して驚いたこと フリーコメント

- * スウェーデン留学であったが、役所ではミスが多く、店では客の扱いがぞんざいであった
- * 病理の部署に非常に多くの人員がいること
- * 文化の違い
- * 自分の希望場所へ行く事. 事前に情報を調べておくこと.
- * 研究指導が的確で、与えられた課題をしっかりとこなせば、帰国までには論文の数編はまとまるようなシステムになっていた. 実験技術も熟練した技師さんが器用にテクニックを教えてくれて、初めての実験でもマニュアルが非常によく整備され時間のロスなく実験ができた. アメリカ人が不器用というのは幻想で、technical excellenceに学ぶべきことが多かった.
- * 1.切り出し等診断方法の違い 2.英語があまり通じないこと(イタリア)3.病理医・技師のライフスタイル
- * 研究だけに時間を費やす事が出来る環境である事—そのため日本より少ない勤務時間でも十分実験ははかどる事. 事務的な仕事は皆無であった.
- * 多くのことは想定内だったような気がするが、病理医や病理学に関する立場などが、規模などは異なるものの、むしろ日本の病理医の感覚とそれほど違わないことが反対に驚きだった。日本ではすぐ「日本に比べアメリカでは・・・」と、そこに理想があるかのように語られることがあるが、必ずしもそうではないことも感じる事ができた

32. 留学して驚いたこと フリーコメント

- * 日本人以外が平和の維持や社会の安定をおびやかす脅威(差別、病気を含め)に対する意識が強い点
- * いわゆるワークライフバランスを皆上手にとっている
- * 研究内容のdiscussionなどを、自由な雰囲気で行っている
- * 論文業績、研究資金の獲得が海外研究者には死活問題であること
- * 日本のラボがいろいろ加減だったただけかも知れませんが、研究面の自由度(雇われた契約以外の仕事をする自由度)が低いこと
- * 中国人以外にインド人が多いこと
- * 各個人(外国人研究者)は自分の得意分野をもっており、その技術は個人が雇用されるために必要なものであり、その技術を容易には教えてくれない
- * 日本からの留学者が多数いたこと。現地での生活面では、日本からの留学者のコミュニティーに助けて貰うことが出来た
- * 日本の居住環境がいかに恵まれているかを知った
- * ボスのとっているグラントにより、雇える人数が変わり、大きなグラントをとっていると、ラボで働く人数も増え、研究室も広くなること(逆もありです)
- * 有名なBronx地区に暮らしたので、治安の悪さと、周囲のコミュニティーの親密さ(隣近所が気軽に声を掛け合い、治安維持に努める)は、日本人にとっては新鮮だった

32. 留学して驚いたこと フリーコメント

- * 研究する環境が整っていること。雑用がないこと。研究費の豊富さ
- * 競争社会で生存競争のなかで、仕事をしていること
- * 修士論文・博士論文を習得するまでの系統だった教育システムがしっかりしている点
- * 医師は基礎研究を好まないこと。多くは外国人留学生やPHDアメリカ人が支えている点
- * 英語コンプレックスは1年で解消できると、逆にアメリカ人の教養の低さが分かってきた
- * 日本にいた時は、研究成果を出すのは難しいなあと思っていたが、毎日のように結果を持ってくることを要求され、必死でやり取りしているうちに成果が出始めた。やはりどのように人に接するかが大切と感じ、その後の後身の指導に生かすことができた
- * 留学した地域が、人種や外国人に対してフランクであったこと(日本に外国人が留学した場合、周囲はそれなりにかまえるのでは?)
- * 結構古い機器を修理しながら大切に使用していたのが印象的でした。その一方で、最新の機器を取り入れており、作業内容も効率的であったこと
- * 人は余裕をもって配置されており、実験室の保守を仕事にしているスタッフがいた

33. 留学のための準備として役だったこと フリーコメント

* 解剖学や病理系のラボへの留学であったので、免疫染色や電子顕微鏡技術は人に教わらなくても自分で実践できました。英語はヒアリングの訓練がそれなりに役立った。留学前に貯金を十分にしておいたので助かった。経済力は重要で、ある程度治安の良い地区に居住地を見つけたり、十分な医療保険に加入するには留学先からの給料では足りません。お金の余裕があれば、留学中の休暇にアメリカの各地を旅することができる。

* 標本作製技術

* 1.留学資金の貯金 2.イタリア語の勉強

* 留学先のボスに誇れる実験手技

* 留学を決めてから渡米までに1年弱あったので、さまざまな心構えができ、具体例を挙げにくいですが、それが実際の留學生活には役立ったと思う。職場を辞めて留学する、ということを決めてからは、毎週末、家族と留学準備ミーティングを行っていた

* 子供の学校関係についてかなり下調べをしていったのはよかった

* 学生の頃からの愛読書”実験医学”の内容

* 障害保険に入っていて現地の医療機関に比較的に通院しやすかった

33. 留学のための準備として役だったこと フリーコメント

- * 留学に関するウェブサイト(研究留学ネット等)は見ていて役に立った
- * 車の国際免許
- * 留学の予定はない時期に、医局の先輩に薦められて、語学学校に通った。聞き取りは上達しない(周囲の下手な日本語英語を聞いている時間がほとんど)だが、自分で話す事には慣れた
- * 学生時代から英会話は勉強していたので、日常生活には支障は少なかった
- * NHKのラジオ講座を毎日3年間聞いていた
- * 余剰時間の一部を利用した英語自習

34. 留学前に準備としておけばよかったこと フリーコメント

* 留学前から、何の書類が必要なのか、身近な人に聞いておくべき。その準備が早いと時間が節約でき、精神的に楽

* 英会話(スクール)

* NHKのラジオ英会話を欠かさず継続して勉強しておれば良かったと後悔しています。留学すると英語力が増すというのは間違いで、日本にいる間に英語力を身に付けておくことが大切と感じます。また、日本で英文原著や英文症例報告をもっと書いておけばよかった(現地で支給される給与アップのためにも)。研究面では生化学や生理学、発生学などベーシックとなる知識を日本で鍛えておくべきだった。

* 奨学金のアプローチ

* 日本の文化や歴史についての知識

* 居住場所などは可能であればだいたい日本でめぼしをつけておくのが良いと思った

* 留学前に一度、留学先を訪問して、設備や留学後の研究内容を把握していれば、それに対応した準備(参考書の準備やある程度の技術の習得)が可能であったと思う

34. 留学前に準備としておけばよかったこと フリーコメント

* 生活のセットアップにかなりお金がかかります。NY(私はlong islandでしたが)では、部屋の家賃もかなり高く、また日本車の中古は日本で購入するより高価だと思いました

* 特になし。言葉の問題は、現地での友人さえできれば(日本人だけで群れていなければ)、6ヶ月もすれば慣れる

* 基礎研究はある程度、自分の技術・知識・専門性を確立させて望まない苦勞する。そのためには大学院で4年間しっかり学位の研究を終わらせて、留学する方が良い研究ができる

* 留学先では基本的な研究技術は日本のように教えてくれないことが多いので、事前に情報を入れて準備しておくべき

* 多国籍の留学生との交流があるので、他の宗教(とくにモズラム)なども知っておきべき

* 米国での生活の立ち上げ方のガイド本をもっと読んでおくべきだった。その影響で、銀行口座が開けなかつたりしたから

* 実験動物の扱いかた

* お金

35. ズバリ留学を成功させる秘訣は？

フリーコメント

* 病理医だから病理の研究でないとダメという見方は選択肢を狭めます。自分の研究テーマに拘泥することなく、留学の相手先の研究室がグラントを得ている課題に真摯に取り組み、研究成果として貢献することが存在感を上げます。要するに誠実で役に立つ研究仲間であることをアピールすることが大切と思う(ガツガツした成果主義の人は嫌われる。時間外まで研究室にこもっていると変人扱いされました。)。また、尊敬できる上司を研究指導者に選ぶことが重要でしょう。生活面では、郷に入れば郷に従い留学先の国やラボの流儀を好きになることが快適な暮らしの基盤になります。留学中は日本のことは忘れましょう。また、英語で話したり書く力を日本で養っておくことがなにより大切です。研究にスムーズに入るには、すでに現地にいる日本人研究者に生活面の導入のサポートをお願いすることが時間の節約や不安解消になります。遠慮せずに日本人同士のお付き合いの輪を大切にすることです。日本に帰国してからも留学仲間として公私の友人となります。留学が飛躍のきっかけになる人もいますが、私は家族とのんびり過ごせる時間が増えてよかったです。研究の発展よりもsabbatical leaveとしての2年間を楽しく過ごすことを心がけました。昔はのんびりした時代でしたので、今は参考にならないかも.....

35. ズバリ留学を成功させる秘訣は？

フリーコメント

- * ズバリ、やる気です！
- * コミュニケーションやディスカッションを大切にする事
- * 自分から積極的にコミュニケーションをとること
- * 何を研究するのか、目的と手段を明確にする。留学前に研究材料や方法に関する準備をしておくこと
- * 好奇心。(病理学に限らず)自分の世界を少しでも広げたいと思う心
- * ありきたりですが現地の環境にうまく溶け込むことが重要と思います。職場でも居住地区でも周囲との良好なコミュニケーションが大切であり、そのためには言語(会話)をある程度使いこなせる方が断然有利です。孤立して虚しい海外生活を送ることを避けるためにも。
- * いい機会なので楽しもう、という心意気(?)が大事だと思います
- * 語学力。自分の意見を説明できなければ立派な研究をしても意味がない
- * 成果が出るまであきらめないこと
- * 留学先の指導者、ラボの選択
- * 論文業績を挙げるという意思表示
- * 御本人の留学への目的や意欲にあったところに行く努力をすること。私の失敗は、よりアクティブな研究室に行けたのに、気楽な研究室を選択してしまったことです

35. ズバリ留学を成功させる秘訣は？

フリーコメント

- * 本人の意思と努力しかない
- * タイミング(行く時期)を考えながら、準備をしっかりとる。インタビューでよばれた時のために、英会話力のみならず、自分のこれまでの研究、これからしたいことを数分でいつでもしゃべれるようにしておく
- * 屈しない精神力と体力
- * 気楽に構えて、留学先の先生たちと仲良くなること
- * 必要すぎるほど、念入りな準備
- * 研究面はもちろんであるが、現地社会に触れて、積極的に多くの人々とコミュニケーションをはかること。San Diegoには日本人留学者が多く、それぞれの研究室を訪ねて、研究のヒントを得ることが出来た。また、現地の英会話スクールやテニススクール等に参加し、米国人はもちろん他国からの訪問者とも知り合いになることが出来た
- * 粘り強さと、publicationに重点を置くなればそれに見合った留学期間をあらかじめdiscussionしておくこと
- * 論文が出ることを成功というのであれば、コンスタントに論文の出ているラボがよいと思います。また、グラントが十分とれていないラボへ行くと、アメリカへ留学したとしても、「日本の方がよかった」位の研究しかできないようです

35. ズバリ留学を成功させる秘訣は？

フリーコメント

- * 語学力と留学先でのヒトとの交流
- * 現地での友人をつくること。日本人で群れないこと
- * できれば2年行く事。国内の派遣でも、慣れるのに半年かかるのでは？一仕事するには2年くらい必要
- * 先輩の話はあまり当てにしないこと。留学体験談は、当事者が留学した「その時」の「その地域」および「特定の施設」での話であり、恒常性のあるものではない
- * よく遊び、よく学ぶ精神か？
- * 気持ちを整理して必死で働いたので、その気持ちを持っていたのが良かったと思う
- * 研究も生活も充実させ、楽しもうという気持
- * 論文を最低1編は仕上げてくるというような明確な目標を掲げること
- * 対人関係を良好に保つことが最も大切と考えます。ただし、こちらの主張も臆せず表現することも当然必要です。
- * 逆算すること。いたずらに留学期間をのばすのではなく、決まった期間で、逆算して行動すること

ご回答いただいた先生方(個人情報欄にお名前をご記載
いただいた先生方のみ、敬称略、順不同)

* 森谷卓也 * 倉田厚 * 丸山理留敬 * 朔 敬 * 上野博夫
* 岩崎 宏 * 伊藤 誠 * 白石泰三 * 平林健一 * 尹 漢勝
* 伊藤利洋 * 福嶋敬宜 * 久岡正典 * 寺本典弘 * 酒井尚雄
* 黒田直人 * 西川俊郎 * 近藤哲夫 * 伊藤隆明 * 入江準二
* 内橋和芳 * 内藤慎二 * 松山高明 * 石田 剛 * 竹屋元裕
* 藤本淳也 * 足立 靖 * 田村浩一 * 伊東正博 * 根本哲生
* 齊尾征直 * 川本雅司 * 新井富生 * 富田弘之...

などなど

アンケートを行うに当たり、ウェブ版の作成に献身的に
ご尽力下さいました

虎の門病院病理部・病理診断科

藤井丈士先生

に心より敬意を表します

2013.6.6 日本病理学会 将来構想検討委員会